2021年度（令和３年度）三鷹市民大学事業総合コース

あゆみ

第 54 号

三鷹市生涯学習センター

表紙の写真は、市民大学公開講座（10/15 開催）の様子

目　　次

総合コースとは …… 2

５コース開設概要 …… 3

令和３年度総合コース企画委員会について …… 4

令和３年度総合コース企画委員を終えて …… 5

運営委員会より …… 7

各コースの学習記録

【教育・子育て】子どもと向き合う、社会と向き合う
～子どもと学びの今、そして未来～ …… 9

【経済】コロナ禍からのグリーンリカバリー
～ SDGs と日本経済～ …… 21

【哲学】私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか …… 31

【社会】どうする！日本の格差社会
～迫られる政策転換と実践的な取り組み～ …… 43

【政治】混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか …… 55

総合コースとは

総合コースとは

三鷹市の市民大学総合コースは、開設以来今年で54年目を迎えました。当初から「学習の主体は市民にある」という命題を掲げ、コースの企画段階から運営に至るまで、市民自らが主体となって行う講座です。

平成28年度までは、三鷹市社会教育会館を会場に開催（開設当初4年は市民会館で開催）してきましたが、社会教育会館の閉館に伴い、29年度からは会場を三鷹中央防災公園・元気創造プラザ（29年4月オープン）に移し、運営や事業理念を市から公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団に引き継ぎ実施しています。

1　総合コースの企画と運営

（1）分野検討委員会の開催

後段に示す、企画委員会の委員を募るために、事前アンケートや公募の委員の意見を集約して、次年度に取り上げる５つの分野を決定します。

（2）企画委員会の設置

公募による委員と担当職員とで企画委員会を設け、半年以上かけて、広く市民の学習要望をもとに、講義内容やそれにふさわしい講師を検討し、カリキュラムを作成します。

（3）運営委員会の設置

各コースの学習生から選出された委員と担当職員とで運営委員会を設け、学習生の意見や要望をコース間で情報共有や意見交換し、一人一人が主体的に学習できる環境づくりを行います。

2　学習方法

各コースとも、講座回数30回のうち20回はゼミナール形式の講義、10回を自主学習の時間としています。年間を通じて、講義･発表･討論などを積み重ね、学習課題についての問題解決や知識の習得をめざします。自主学習では、講義を契機として各人が互いに意見を交わしたり、交流を深めたり、運営について話し合ったりするなどして、自主的に学習を進めていきます。

3　学習の記録『あゆみ』の作成

総合コース『あゆみ』とは、総合コース１年間の学習記録です。

毎年、各コースの学習生が終了時に学習の記録や感想を執筆し発行しています。

4　学習成果の発表

学習成果の発表として、今までの学習内容をコースで話し合い、模造紙２枚にまとめ、『生涯学習センターフェスティバル』で市民に向けて展示します。

令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大のため『生涯学習センターフェスティバル』は中止となりましたが、経済・社会・政治の３コースが学習内容を模造紙にまとめ、元気創造プラザ１階休憩コーナー前の廊下に掲示を行いました。

５コース開設概要

令和３年度の総合コースは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により学習室の定員が半数に制限されたことから、各コースの定員を 28 名から 15 名に減らして開催しました。途中、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など外出自粛要請が出された期間もありましたが、Zoom 等のオンライン会議ツールを活用したり、出席時の体温計測、手指消毒などの感染防止対策を徹底した結果、全 30 回の全講座日程を無事に終了することができました。また、オンライン講義を導入したことで、メイン講師がオンライン講義のコースでは、別枠でオンライン聴講生を募集したり、公開講座もオンライン参加の一般枠を設けたりすることができました。

会　　場　　三鷹市生涯学習センター（元気創造プラザ４階）
開設時間　　午前 10 時～正午

コース	要　　旨
子どもと向き合う、社会と向き合う ～子どもと学びの今、そして未来～ 5 月 14 日～３月 11 日 （金曜日　全 30 回）	未来を担う子ども達。その子ども達がどのような教育を受けてきたかという事は、社会の有り様に大きな影響を与えます。 本講座では、近年の教育政策とその社会的背景を考察すると共に、科学技術の発達で急速に変わりゆく社会の中で「子ども達にとって本当に必要な学び」は何かを探っていきます。 子育て中の方、教育に興味のある方、ご一緒に考えていきませんか？ 小針　誠 さん（青山学院大学教育人間科学部教育学科教授）　ほか
コロナ禍からのグリーンリカバリー ～ SDGs と日本経済～ 5 月 14 日～３月 11 日 （金曜日　全 30 回）	コロナ禍による経済の落ち込みは、資本主義社会の矛盾（ジレンマ）とパラドクスを鋭くあぶり出しました。これまでの大量生産・大量消費＆廃棄型社会は、地球温暖化対策として「脱炭素」カーボンゼロ型社会へと脱皮を迫られています。 ＥＵでは、コロナ後の新成長戦略として、グリーンリカバリーが唱えられました。日本も持続可能な経済再生への道を歩むための方策をともに考えていきたいと思います。 白井　さゆり さん（慶応義塾大学総合政策学部教授）　ほか
私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか 5 月 14 日～３月 11 日 （金曜日　全 30 回）	私たちの生きている時代は、コロナ禍や格差や貧困、民族対立、分断と不寛容などの広がり、生への不安といった渾沌の時代に直面しています。こうした時代を生きるために、哲学的な思考が必要とされています。 本講座では改めてこれまでの哲学の碩学の教えをたどり哲学的に考えることを学んでいきます。また生命倫理、社会学のアプローチなど多様な講師により、多面的なスコープをもった学習を展開していきたいと思います。 平原　卓 さん（哲学者）　ほか
どうする！日本の格差社会 ～迫られる政策転換と実践的な取り組み～ 5 月 15 日～３月 12 日 （土曜日　全 30 回）	コロナは、社会の弱点をあぶりだし、日本のあらゆる層に貧困と格差が生じていることが浮き彫りになりました。それはコロナならぬ人々が”自己責任論ウイルス”に侵されてきたことも、大きな原因かもしれません。 どのような政策や取り組みによれば、格差・貧困にあえぐ老人・若者・女性・子供が生気を取り戻し、日本の社会が持続可能であり続けられるのか、ともに学び考えませんか。 駒村　康平 さん（慶応義塾大学経済学部教授）　ほか
混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか 5 月 15 日～３月 12 日 （土曜日　全 30 回）	世界が新型コロナウイルス対応に追われる中、先鋭化する米中対決、逼迫する経済、深まる分断、格差など現状は未だ先行き不透明ですが、人々が真に協力出来る方策が見えてくれば、混迷脱却の希望に繋がるかもしれません。 国際安全保障秩序や民主主義の態様、それらを踏まえた日本外交のあり方など、現代人の行く末を展望しつつ、主権者としてできる事を学んでいきましょう。 小原　雅博 さん（東京大学名誉教授）　ほか

※夏・冬休みは除く

令和３年度総合コース企画委員会について

企画委員会では、公募による市民の委員と担当職員が一堂に会し、毎年、次年度の開設コースのテーマ、学習内容、講師などについて協議し、決定しています。

令和３年度は令和２年９月から令和３年３月までの約７か月間、計 12 回の会議を行いました。

令和３年度企画委員会の開催日、主要課題

回	開催日	主要課題・内容
1	9/3 （木）	○総合コース概要及び今年度企画委員会の特徴の説明 ○５コースの分野検討及び選定に係る協議
2	9/17 （木）	○５コースの分野決定 ○各コース委員決定 ○開催曜日の検討、決定
3	10/1 （木）	○全体テーマの検討・決定 ○主軸となる学習内容の検討
4 ・ 5	10/15・10/29 （木）	○コースの趣旨、年間30回の大まかな流れを検討 ○メイン講師、ゲスト講師の検討
6	11/5 （木）	○コースの趣旨、年間30回の大まかな流れを検討 ○メイン講師、ゲスト講師の検討 ○市民大学公開講座の検討
7	11/19 （木）	○メイン講師の決定 ○メイン講師との打合せ日程調整 ○カリキュラム、ゲスト講師の検討
8 ・ 9	12/17・1/21 （木）	○カリキュラム、ゲスト講師の検討 ○コースタイトル、サブタイトルの作成 ○総合コースPRポスター及びチラシの作成者選出 ○講座開設趣旨180字（募集チラシ用・広報誌用）の作成
10	2/4 （木）	○カリキュラムの完成 ○ポスター、チラシ完成
11 ・ 12	2/18・3/4 （木）	○ポスター、チラシの配布準備 ○総合コース開講式の打ち合わせ ○学習記録「あゆみ」企画委員会ページの執筆者の選定 ○反省会（企画委員会を振り返って）

＜時間・場所＞　午前10時５分～正午　　生涯学習センター　ホール

令和３年度市民大学総合コース企画委員を終えて

「どうする！日本の格差社会」
八 杉 茂 樹

（二度目の企画委員）

企画委員は二度目になりますが、今回はコロナの影響で企画委員の応募者が減少して従来通り５コースが開催されるか不透明でした。しかし、事務局の尽力と参加委員の協力とにより今年度も無事に５コースの実施が決まりました。その際に、「日本社会の格差・貧困の問題」というように取り組みテーマを具体的に提案していたのは私だけだったのですが、５コースの中の一つとして取り上げていただくことになりました。他の４コースについては、「政治的な問題」「経済的な問題」「哲学的な問題」「教育・子育てに関する問題」ということで具体的なテーマは決まっていたわけではなく、その後問題別に分かれた分科会で企画委員が話し合いを重ねることで具体的に決まっていきました。

（格差・貧困の問題）

あらためて、私が「格差･貧困の問題」を今回の市民大学の講座のテーマにしたいと思ったのは、二つあります。一つは、このたびのコロナ禍で格差・貧困の問題がこれまで以上に顕著になったからです。二つ目は格差・貧困が拡大し固定化してゆく社会は、社会が不安要因を抱え込むことから確実に衰退に向かい、持続可能な社会が覚束なくなるのではないかと考えたからです。

その後、コース別の企画委員会が始まってからわかったことですが、14 年も前に当市民大学の総合コースの一つとして、「格差社会に生きる」というタイトルで講座が開催されていることがわかりビックリしました。当時は、小泉構造改革により労働者派遣法が相次いで改正され、人件費の抑圧から非正規雇用が増大して、巷にフリーター、ワーキングプア、ネットカフェ難民があふれ出て社会問題になってきたことによるものと思われます。要するに、格差・貧困の問題は拡大したまま今に至り、その是正が全くなされてこなかったことを物語っているわけです。

（公正な分配の実現と国民の意識改革）

そして、格差・貧困の問題を考えるとき、私は国民の意識下に「自己責任論の空気」が蔓延していることが気になっています。「努力をする者が報われる」と言われますが、このことは裏を返せば「格差・貧困にあえぐ者は努力が足りなかった結果じゃないか」ということになって、「自業自得を容認する空気」が醸成されている面もあるのではないかと思っています。

したがって、まずこの「自己責任論の空気」を払拭することが極めて重要ではないかと考えています。また、格差･貧困の問題は経済のグローバル化による国際競争力の問題と不可分の関係にあり、新自由主義的な政策の推進が助長したと言えます。もはや個人の自助努力ではとても及ばないひどい状況にあることを、政治がどう受け止めて真剣に向き合うかが問われているのではないかと思っています。そのうえで、これほどまでに拡大した「格差･貧困問題」に対していかなる修正策や是正策を講じるべきなのか、また、「公正な分配」の実現は本当に可能なのか、今回の講座を通じて勉強していきたいと思っています。

令和３年度市民大学総合コース企画委員を終えて

「私たちは渾沌とした時代をどう生きるべきか」

ふるた　チ　カ

‘21 年春、３月 26 日現在、「COVID-19」・「変異種株ウイルス」肺炎症の蔓延に「文明的世界」は、不安な３年越し立ち竦んでいるようです。世界で悲劇的な感染者１億２千８百万人・死亡率 2.1％（280 万人）、我が国 471 万人・死亡率 1.96％（9.1 千人）感染猛威拡大している。－始まりは、’19 年晦日中国・武漢市・海鮮市場から発症が忽ち家庭内感染→院内感染→老人施設へと繋がり短日時に医療崩壊が起きた。翌‘20 年３月、WHO は PANDEMIC 宣言発令。世界の終わりのような異様な光景が後世の歴史に残る。「生命の危機」に三鷹市民、同隣接５市区計 17,750 人（３/31 現在）は身が怯み怖じける。

▼三鷹市行政も社会的な方策、個人的衛生として Social-Distancing の移動制限を課した。例年６月に行われる「分野検討委員会」の日程イレギュラーで、「企画委員会」は９月からの 11 回協議で分野の検討と令和３年度市民大学の年間講師の選任を行った。－メイン講師１名（10 回）、ゲスト講師 10 名（講義各１回）枠、哲学コースも各々委員の 36 名推挙の中－私たちは講師を次のような視点で選考を行った。①講師の専門分野　②居住地（三鷹市来館の講義が可能か）　③講師の日程　④市民の希望するニーズに合致するか　⑤市趣旨の Communion 育成に理解が得られること―コロナ禍の苛まれる「哲学」企画委員会は、誠実な仲間たちと真摯な話し合いを行ったが「講師選任」に苦慮した。「面識のない講師個別交渉」を職員の労苦に与り無事「全 30 回講座」が発表できた。“感謝”です。

▼企画委員会最終日「おはようございます」静かな声がマスクで曇る。哲学コースの企画委員４人の席に、加療中の仲間が遅れてやってきた。声掛けを「聴く」。「眼」と視線を合わせ「ヤア、お久しぶり」普段しない右肘の軽いタッチのグローバル・スタンダードで「触れ合う」対面の悦び合い。「昭和戦禍」を何とか生かされた私たちの時間＝委員は、「巣ごもり」謹慎から暫時開放された貴重な Communicate を覚える時間になった。

▼不安な、混迷と暗闇に見える世界と〈日本劣島〉の光景。やはり便利さや効率優先の科学、新たな Tecnology 導入を急ぐかしら―デジタル情報の氾濫、AI（人口知能）・BT（生命科学）・IT（情報技術）等々、生きとし活かされている周辺の劇的変質

－「現代 History」の影を「科学 Story」に見る思い。

▼私たちは「世界の本質」・「人生の価値の見直し」を迫られている、と云うことか？「人間尊重（主義）」の崩壊を早める痛み、“わからない、どう向き合えばよいか”“今こそ”哲学の実用性が求められていると思います。

『私たちは、混迷した時代をどう生きるか』

「肺炎症疾病」COVID-19・変異ウイルス等の一日も早い終息を祈ります。

運営委員会より

１　令和３年度の学習生数

子どもと向き合う、社会と向き合う～子どもと学びの今、そして未来～	女 15名・男	0名	計 15名
コロナ禍からのグリーンリカバリー～SDGsと日本経済～	女 7名・男	8名	計 15名
私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか	女 7名・男	8名	計 15名
どうする！日本の格差社会～迫られる政策転換と実践的な取り組み～	女 8名・男	7名	計 15名
混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか	女 6名・男	9名	計 15名
合計	女 43名・男	32名	計 75名

２　運営委員会

開催日　5/28（金）、7/9（金）、9/25（土）、10/23（土）、12/10（金）※、3/4（金）
午後１時５分～２時（全５回※ 12/10 は委員会は開催せず、報告事項を運営ニュースにまとめた。）

構　成　各コース４～５名の運営委員と生涯学習センターの担当職員

３　運営委員会の取り組み

（１）運営委員会ニュースの発行　NO.1 ～ NO.6

毎月の運営委員会での話し合いの結果を翌週の学習日に配布
運営委員会の内容をすべての学習生が把握し、主体的に運営に関わることを目的としています。

（２）市民大学公開講座【10 月 15 日（金）・16 日（土）開催】

○ 10 月 15 日（金）対面形式での開催　一般の参加枠無し（53 名参加）
『アメリカと日本の 100 年：1921 年～2021 年』
講師　スティールM. ウィリアムさん（国際基督教大学名誉教授）

○ 10 月 16 日（土）オンライン形式での開催。一般参加の公開講座（58 名参加うち一般 17 名）
『小惑星探査機「はやぶさ２」～その成果と舞台裏～』
講師　中澤 暁さん（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチームサブマネージャ）

市民大学公開講座は、総合コース学習生が一堂に会して学習する場を設けることで、相互の交流を深める目的で開催しています。企画委員会で講演内容・講師候補を検討、選定した上で事務局が講師へ出演交渉をしています。令和３年度は、会場のホールの定員が 63 名に制限されたため、対面形式の 15 日（金）については学習生の参加に限定し、講師がオンラインで講義を行った 16 日（土）についてのみ、オンラインで一般公開して実施しました。

（３）三鷹市生涯学習センター利用者懇談会への委員選出

運営委員会が推薦した２名の委員が生涯学習センター利用者懇談会※に参加し、総合コースを代表して、今後の事業のあり方や施設の運営などについて意見や要望を伝えました。

※生涯学習センターのより良い運営のために、市長が利用者の意見を聞く場として設置

（４）「あゆみ」の発行

各コースから編集委員を２名選出し、１年間の学習の記録として、「あゆみ」を発行しました。令和３年度は編集会議を設けず、原稿のとりまとめ、校正作業を中心に極力作業を簡素化して行いました。

総合コースを振り返って（令和３年度　運営委員会より）

【各コースの感想】

＜教育・子育てコース＞

メイン講師がオンライン講座だったことで、オンライン聴講の参加者を増やすことができた。子どもの体調不良で来館できない場合にもオンライン受講は有効だと思う。子育て分野だけでなくシチズンシップ教育や国家についてなど幅広いテーマで学ぶことができたのが良かった。

＜経済コース＞

満足度は 90％。講義資料を事前に配布できたことは良かった。講義内容が難しいという意見やメイン・ゲスト講師の連続性に差異があった点、学習生同士の交流が不十分だったことが残念。

＜哲学コース＞

参加者の平均年齢が下がり柔軟な考え方が勉強になった。15 人定員だが病気や諸々の事情で満席になることが少なく、講義内容が素晴らしいだけにもったいなかった。

＜社会コース＞

参加者の平均年齢が下がり様々な意見がでた。

＜政治コース＞

出席率が高く意欲的に学習課題に取り組めた。講義後には「今日も面白かったね！」という声が多く、非常に上手くいったと思う。

【自主学習について】

・旭川のいじめ問題について show&tell の手法を用い自分の考えを発表した。「みんなのみたか」メンバーにお越しいただき意見交換を行った。

・講義内容の振り返りを３回行い意見をまとめ、学習生からの要望としてメイン講師にお伝えして、その後の講義の進め方を修正していただいた。哲学対話を２回行い充実していた。

・アンケートを取り内容を決めたため、バランスがとれていたが参加者が少なく深め合う交流が不十分。数人が 20 分の発表を行ったが全員が行った方が良いとの意見が出た。講義内容を展示物にまとめ、市長に提言を行った。オンライン参加を取り入れたところ、スムーズに行えた。

・何をやるかアンケートを実施した。格差問題について市職員の方からお話していただいたり、学習生の体験談を語ってもらったりした。

・学習生の方に、ご自身の経験を踏まえた発表をしていただき、良い学びの時間となった。

【公開講座について】

・開催できて良かった。これからも今までどおりに開催して欲しい。

【コロナ対応（主としてオンライン対応）について】

・定員はできれば通常に戻せたら良い。事務局に、これ以上は無い程の対策をしていただき感謝。

・オンライン講義でも質疑などは充実し、遠方の講師に依頼できるといったメリットがあるが、できれば対面で実施したかった。

・なるべく対面での講義を予定していたが、講師の要望で２回オンラインになった。15 人しか受講できないのはもったいない。受講した人が学んだことを他の人に伝えることができないかと思う。

・今後も市民大学では極力オンラインを使用せずに実施し、コロナが終息した後は、これまでどおり対面でのゼミナール形式を原則として欲しい。

子どもと向き合う、社会と向き合う

～子どもと学びの今、そして未来～

講師：小　針　　誠
（青山学院大学教育人間科学部教育学科教授）

教育（改革）を診る―「熱い思い」と「冷静な判断」―

講師　小　針　　誠

本講座は「子どもと向き合う、社会と向き合う～子どもと学びの今、そして未来～」と題して、年間全30回、そのうち小針は５月28日から７月２日の全６回の講義を担当しました。

わたしの担当回では、主に2020年教育改革（授業改善、カリキュラム改革、大学入試改革）の内容とともに、それを捉える視点や考え方について、お話ししました。改めてその視点や考え方を強調しておきたいと思います。

第一に、教育を見る際には、個人の視点のみならず、社会的な視点をもつことの重要性でした。つい私たちは教育と言うと、目の前のわが子や担当クラスの児童・生徒を念頭に置いて物事を考えがちです。多様な家族や子どもがいることを想起しながら、社会全体にとって善き教育を考える必要があります。

第二に、その善き教育には、政策であれ、実践（日々の子育て）であれ、十分な根拠をもつことが大切です。「～だから、…をする」の「～」の部分こそが大切なのだと思います。特にすべての先生方や子どもたちに関わる教育施策においては、客観的な根拠が求められます。

第三に、それでも私たちはこれからの善き教育を構想し、子どもたちや社会の未来を考える必要があります。その熱い思いこそ、子どもの教育を考える上での強い原動力になります。

教育を考えるうえでは、「熱い思い」と「冷静な判断」とのバランスが求められるということにほかなりません。近代経済学の祖といわれるアルフレッド・マーシャル（1842 ～ 1924）は「冷静な頭脳と温かい心（Cool heads but warm hearts）を持ち、周囲の社会的苦難と格闘するためにすすんで持てる最良の力を傾けようとする……そのような人が増えるよう最善を尽くしたい」と述べました。教育についても同じことが言えるのではないでしょうか。わたしも「そのような人が増える」ことを期してやみません。

プロフィール

【肩書】
青山学院大学教育人間科学部教育学科　教授
【プロフィール】
福島県生まれ、栃木県育ち
慶應義塾大学文学部卒業、東京大学大学院教育学研究科修士課程、同博士課程修了。
博士（教育学）同志社女子大学現代社会学部准教授などを経て2017年４月より現職。
（研究領域）教育社会学・教育社会史
【主著（いずれも単著）】
『教育と子どもの社会史』梓出版社、2007年
『〈お受験〉の社会史』世織書房、2009年
『〈お受験〉の歴史学』講談社選書メチエ、2015年
『アクティブラーニング』講談社現代新書、2018年

講座の様子

●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
1	５月14日	開講式・オリエンテーション	自主学習１
	自己紹介・運営委員決め		
2	５月21日	人工知能にどう向き合うか	元NHK解説主幹・大正大学客員教授 室山哲也さん
	ＡＩとは何か。現段階の自動運転のレベルと今後について		
3	５月28日	教育(改革)をどう見るか	青山学院大学教育人間科学部教育学科教授　小針　誠さん【オンライン】
	ナショナルカリキュラムと学習指導要領、2020年教育改革について		
4	６月４日	詰め込みか体験重視か？	小針　誠さん【オンライン】
	教育カリキュラムは、経験主義と系統主義を振り子のように変化している		
5	６月11日	ゆとり教育と学力低下？	小針　誠さん【オンライン】
	社会経済的地位による、学習時間・学力・教育達成の格差		
6	６月18日	アクティブ・ラーニング――何が問題か	小針　誠さん【オンライン】
	学力の三要素を土台にした教育改革、主体的対話的で深い学び、カリキュラムマネジメントと地域間格差		
7	６月25日	大学入試改革はなぜ失敗したのか	小針　誠さん【オンライン】
	大学入試改革の三本柱と問題点について		
8	７月２日	ポスト・コロナの教育を考える	小針　誠さん【オンライン】
	コロナ禍での教育、次期学習指導要領について		
9	７月９日	持続可能な社会をどうつくるか～地球温暖化と子供たち～	室山哲也さん
	脅迫型ではなくポジティブ思考の持続可能な社会を考える		
10	９月10日	思春期の子どもの発達心理学 ―小学校高学年から中学生の子どもと親との関係性―	白百合女子大学准教授 眞榮城和美さん
	思春期の心身の発達を理解し、今後の親子関係に活かす		
11	９月17日	自主学習	自主学習２
	今後の自主学習の内容について検討		
12	９月24日	なぜいまデジタルシティズンシップなのか ～情報モラルからの転換とその背景	国際大学GLOCOM 准教授・主幹研究員　豊福晋平さん
	世界の教育が展望すること、ＧＩＧＡで何が変わるのか		
13	10月１日	テクノロジーの善き使い手となるための方法 ～ Common Sense 教材の読み解きと体験	豊福晋平さん
	ＩＣＴの日常利用のためのデジタルシティズンシップの必要性		
14	10月８日	自主学習	自主学習３
	講義の振り返りとゲストスピーカーへの質問を考える		
15	10月15日	自主学習：【公開講座】アメリカと日本の100年：1921 ～ 2021	国際基督教大学名誉教授 スティールM. ウィリアムさん
	10月16日	【公開講座】【オンライン講義】小惑星探査機「はやぶさ２」～その成果と舞台裏～	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチームサブマネージャ　中澤暁さん

回	日　付	講　　義　　名	講　　師
	学　　習　　内　　容		
16	10月22日	教育格差の現状	早稲田大学准教授　　松岡亮二さん
	データの計量分析から教育格差を考える		
17	10月29日	コロナ禍で変化する環境と子どもたちのネット事情	エンジェルズアイズ代表 遠藤美季さん
	子どもたちのネット利用の現状と問題解決のための工夫		
18	11月５日	自主学習	自主学習５
	各家庭のネット環境、子どものスマホ利用状況について情報交換		
19	11月12日	絵本の魅力 ～子どもの豊かな情操・課題解決力・創造力の育成のために～	株式会社フレーベル館 取締役 木村美幸さん
	読み聞かせに年齢は関係ない、音読のすすめ		
20	11月19日	自主学習	自主学習６
	教育委員会中村氏による、三鷹市のＧＩＧＡスクールとコミュニティスクールの説明		
21	11月26日	自主学習	自主学習７
	ＮＨＫクローズアップ現代「旭川女子中学生凍死事件」を見て話し合う		
22	12月10日	子育てが楽しくなる親力の伸ばし方	「授業・人」塾 代表、元筑波大学附属小学校副校長　　田中博史さん
	子どもを観察することの大切さ		
23	１月14日	フィンランドの教育と子育て～人は一番の資源	フィンランド大使館プロジェクトコーディネーター　堀内都喜子さん
	フィンランドの国会、働き方、教育、意思決定への参加について		
24	１月21日	自主学習	自主学習８
	自分が普段思っていることを受講生に伝え合う		
25	１月28日	18歳選挙権とシティズンシップ教育	東京大学大学院教育学研究科教授 小玉重夫さん
	現代に求められる新しい主権者像と、これからの主権者教育について		
26	２月４日	自主学習	自主学習９
	「みんなのみたか」の方々との交流		
27	２月18日	教育と国家―〈自由〉と〈批判〉をめぐって	哲学者　高橋哲哉さん【オンライン】
	批判的な判断の必要性、教育基本法改正について		
28	２月25日	子育て不安との上手な付き合い方 ―不安を「抱えられるサイズ」にする心理学的ヒントー	眞榮城和美さん
	認知行動療法のワークを通して、子育ての不安を小さくする		
29	３月４日	『若者の政治参加』および『主権者教育』の現状とこれから ～日本・スウェーデンを事例に～	日本シティズンシップ教育フォーラム副代表　　古野香織さん
	スウェーデンの主権者教育の紹介と批判的思考のワークショップを行う		
30	３月11日	自主学習	自主学習10
	批判的思考のワークショップ、１年間の感想を伝え合う		

講座を終えて　K. A.

普段生活しているとなかなかお会いすることのできない、さまざまな分野で活躍されている講師の方々の講義は、とても内容が濃く、多様な角度から物事を考えられ、充実した時間を過ごすことができました。自分の子育ての考え方と対比をし、実際の生活の中に落とし込むことができました。

さらに、今回のテーマである「子供と向き合う、社会と向き合う～子供と学びの今、そして未来～」の通り、自分の子育てに留まらず、今後の日本はどのような社会を作っていくことがベストなのか、一国民として真剣に考え、学ぶことをとても楽しく感じました。

このような場所で学ぶ機会を作ってくださり、感謝いたします。ありがとうございました。

一歩を踏み出すための勇気　K. I.

今年度は教育・子育て講座ということで、子供達を取り巻く社会背景や現状を知ることができ、そこから自分が「どう一歩を踏み出すのか」ということを考える機会を多く頂きました。

その中で講師の先生方や一緒に参加された方の考えを聞く機会も多くありました。

今まで私は「自分の考えを持つこと」が苦手でした。偏った考え方は持ちたくない。自分が何かしようと思っても結局何も変わらない。そうした自分の心の中に隠れている思いに気付きました。

しかし、講師の方々が様々な問題意識を持たれ、多くの問題に取り組まれていることに対して、大変刺激を受けました。そして参加者の皆さんが真剣に向き合い、自分の考えを持ち、何とか良い方向に進まないかと発言し合い、対話をしている姿を目の当たりにし、私自身ももっと考えたいという思いに変わっていきました。

私自身、子育てをしながら感じたことは、教育や子育てには「答えがあるようでない」問題が多くあるのではないかということです。

多数派の意見や、もっともそうな答えを探すのは楽かもしれませんが、本当にそれで良いのか？と思うことが多々あります。

この講座を通じて「自分の意見を持つことや、考えることの大切さ」や「考えることが人を強くする」ということを学ぶことが出来たので、まず親である自分が自分の意見を持ち、色々な形で発信できるようにしたいと思いました。

私は現在１歳と４歳の２人の子育て中です。ここで学ばせて頂いたことを糧として「考えること」を通じて、まずはそこから一歩踏み出せることを子供たちへも伝えていけたらと思っています。

一緒に参加して下さったメンバーの皆さん、小暮さん。１年間ありがとうございました。

知ること、伝えること、話し合うこと。

E. I.

私は今回の講座に企画から参加することができました。最初は子どもの自己肯定感を高くする方法や親の声掛け方法を学びたいと思っていましたが、先輩方と話をしていく中で親である私が広い視野で子ども達の今と未来を考え、導いていくことが大切だと感じました。実際に講座のテーマを決めて内容や講師を選ぶ作業では、様々な書籍を読みＨＰを検索しました。今までに見たことも読んだこともないものばかりでしたが、実際に講師として来て下さった先生方とお話しした時に知り合いのように感じたのはそういった時間があったからかもしれません。

講座を受講して、日本や世界における社会の流れを教育という切り口で学びました。良いことを全て取り入れれば良い教育ができるかというとそうとも言いきれませんが、理想を持って取り組むことはとても大切だと思いました。また、IT 化、デジタル化が進む中で、人に自分の意見をきちんと伝えること、お互いを理解するために話し合うというアナログがとても大切なことだと感じました。我が家は子ども達が大きくなり一緒に過ごす時間が少しずつ減っています。そんな今だからこそ積極的に対話し、お互いの考えを伝え合いたいと思います。

最後に、１年間を通じて様々な年代の方と机を並べて学び意見交換ができたことは私にとってとても刺激的で貴重な体験でした。コロナ禍でもオンライン･対面と臨機応変に対応し、私たちの学びを支えてくださった事務局の方々に感謝申し上げます。

講義で得た意識変化

M. O.

金曜日の午前が私のリフレッシュタイムとなっていました。新鮮な内容の講義をしてくださるパワーあふれる講師陣、熱心に講座を受講しているキラキラ輝く魅力的なお母さん達、クラスを盛り上げてくださるムードメーカの担当職員さん、こどもと丁寧に向き合ってくださる保育士さん達。皆様のおかげで楽しく貴重な時間を過ごせたことを感謝しています。

私は専業主婦となり子育て 10 年目に突入しました。不器用な私は楽しく子育てをしているつもりですが、家族のための時間ばかりで自分のための時間を上手に作ることができていません。研究し続け、学び突き進む講師陣、自分も大切にして子育てもしっかりしているお母さん方。そんな方たちと時間を共にするに従って、今のままの自分でいるより変わりたいと思うようになりました。

考えることを疎かにし、ただ一日を慌ただしく過ごすそんな日々を送っていました。講義の中で「考えることが人間を強くする」と考えることの大切さを学ぶ機会もありました。考え学ぶということはとても幸せなことなのだと忘れかけていたことを思い出すことができました。生活をガラリと変えることはできていませんが、以前よりは考えることを意識して過ごすようになりました。

コロナ禍で教育現場も急速に変化しています。そんな状況でもスムーズに対応している子どもたちに負けないよう私も変わらねばと思っています。今後も「考える力」を子どもたちと共に鍛えていきたいです。

三鷹で子育てができてよかった　Y. S.

５月の日差しが気持ちの良い中、買ったばかりの自転車に子どもを乗せて、さわやかな気持ちで参加した初日の開講式でしたが、私の気持ちに雲がかかりました。この市民大学は、歴史があり、自学自習で作り上げる講座である事がなんとなくわかり、「託児付き講座」に飛びつき参加した私は、驚きと「こんな軽い気持ちで参加してしまってよかったのかな」と不安な気持ちになりました。しかし、受講を終えた今、「参加してよかった！」という気持ちでいっぱいです。

特に印象に残っているのが、「三鷹教育委員会教育主事（つまり偉い人）をお呼びしての自主学習」です。主事をお迎えするにあたり、授業前に私自身で三鷹の教育や学校について調べてみました。（予習をするなんていつぶりでしょう！？予習をする自分に拍手をしました。）当日は、三鷹市の iPad を使った授業内容や導入経緯、問題点なども教えていただきました。自分の頃とは違う環境に不安に思う気持ちもありましたが、一番大事なことは、親が子どもに関心を持ちコミュニケーションをしていくという基本的な姿勢が大切だと認識しました。

この市民大学子育てコースを受講し、社会学の視点から子育てを考えることで、「この社会でどう生きるのか？」「どう生きたいのか？」「どのように道しるべを示していくべきなのか？」を考えることが出来ました。つい忙しい毎日の中その日を乗り越えていくことで精いっぱいになってしまいますが、５年後 10 年後を見据えて子育てを考える機会をもらいました。

最後にはなりますが、コロナ禍で大変な運営の中、最善を尽くしてくださった事務局の皆様、受講中に子どもを暖かく保育いただいた保育室の先生方に御礼申し上げます。

子育て講座を終えて　M. S.

市報でこちらの講座を見つけ、１年の期間は長いけれど、週１回子供を２時間も無料で預かってくれるという軽い理由で受講を決めました。いざ入校式へ行ってみたら、本格的な入校式、各コース幅広い年齢の受講生の方々、受講生代表の言葉を聞き圧倒され、こんなに軽い気持ちで来たことに場違いだと感じました。しかし１年間受講したら、あっという間で非常に濃密な受講期間を終えることができ、心から通って良かったと思いました。

講座の内容は、どれも興味深い内容でした。現代の教育が私たちの小学生の頃とは全く違っていることを知り大変驚きました。アクティブラーニングやＧＩＧＡスクール構想など聞いたことはあるけど、内容は知らなかった事を講師の方々の詳しく丁寧な解説で知ることができました。受講しなければ触れたり考えたりしないことに多く気づけて良かったです。受講生の皆さんとも話し合いの時間や一言ずつ考えを話す時間が沢山あり、他の方の悩みや考えを聞くことで、自分のモヤモヤしている気持ちに整理ができ、前向きな気持ちになれました。

大人になってもこのように学ぶ機会を作ってくれた三鷹市、企画委員の皆様、運営委員の皆様に感謝致します。受講生の皆様も一緒にとても貴重な時間を作ってくださって、ありがとうございました。

学び続けることの大切さ　H. S.

三鷹市市民大学総合コース、本年度で四度目の受講となりました。過去三回は「子育て」コース、今回初めて「教育」コースに参加させて頂きました。コロナ禍により、受講生の数が少なくなり、オンラインでの講義や、自主学習のあり方など、例年と異なる部分が沢山ありましたが、今年も一年、同じ志や悩みを持った受講生の方々と、新しいことを学び･吸収することが出来、大変有意義な一年を過ごすことが出来ました。

「教育」のコースですが、講義内容は、非常にバラエティに富み、教育（改革）・教育格差から始まり～持続可能な社会、人工知能、デジタルシティズンシップ、子供の発達心理学、親力の伸ばし方等々、幅広いエリアの講義内容を、各専門分野の先生方より学ぶ機会を頂きました。全30回の講座と聞くと、長いようにも思われますが、毎年あっという間に終了となり、また30回だからこそ出来る、連続した学びの良さがあります。

日々、目の前のことに追われ、新しいことを取り入れたり、周りを見る余裕がなくなっています。子供は成長していくのに、自分はどうなのだろうか・・・そのような葛藤の中、「教育」コースで学ぶ多岐多様な講義内容や知識・情報は、実は日々の暮らしに結びついていたり、潜んでいる問題だったりすることに気づかされ、学び続けることの大切さ、そのような機会の有難さを、改めて実感する一年となりました。

毎年、このような素敵な三鷹市民大学総合コースを作って頂き、講師の先生方、事務局の方々に、感謝の気持ちで一杯です。また共に楽しく過ごさせて頂いた受講生の皆様方、一年間本当にありがとうございました。

未来ある子どもたちのために　私たち大人ができること　H. T.

今回のコースでは、変わりゆく社会の中で、学校教育のあるべき姿、教育改革におけるアクティブラーニング、子どもたちのネット事情など、過去から現在における国の教育から、未来の教育について考える貴重な時間をいただきました。一番印象に残った講義内容は、選挙権改正により、若者の政治参加をどのように捉え、どのような教育が必要なのかという講義でした。どうせなにか望んでも何も変わらないだろう、与えられたことの中で生きていけばいい、そんな考えを持っている大人も少なくないのではないかと思います。学校という最初の社会で、自分たちが声をあげればルールを変えることができる、マイノリティーな意見でも声をあげれば聴いてもらえる、そんな成功体験を積み重ねることが出来れば、自分たちの手でこの世の中を良くしていこうという子どもたちで溢れ出すかもしれない。そんな輝かしい未来を作るために私達大人が子どもたちにできることを少しづつでもやっていこうと思えた講義でした。今回このコースを受講して一番良かったことは、素晴らしい受講生達との出会いでした。多種多様なバックグラウンド、 下は１歳から上は成人されているお子さんをお持ちの受講生が集まっていて、講義内容の質問や受講生同士のディスカッションタイム、受講生による Show and Tell　などを通して、自分と違う様々な考えに共感させられ、受講者それぞれの秀でた才能を見ることが出来ました。同じ女性としてこんなに素敵で多才なママ達に出逢えたことを心から感謝しお礼を言いたいです。私と巡り会ってくれてありがとう。素敵な時間をくださってありがとう。

コースを終えて　T. Y.

最初に今年度の教育・子育てコースが開催されたのはコロナ禍に企画委員会に参加された皆様がご協力くださったお陰だということを記しておきたい。コースの企画に先立って実施された「学びたいテーマ」のアンケートで教育・子育て分野のテーマは数えるほどしかあげられていなかったし、集まった企画委員は５つのコースを企画するのに十分な人数ではなかったからだ。子育て世代は休校もあって子供たちが家庭で過ごす時間が長くなり、家庭内消毒や昼食作りなどの家事の負担も増えた上に感染への不安も重なって市民大学のことを考えるどころではなかっただろう。感染が少し落ち着いたタイミングでこれからの教育について考える機会が得られて良かったと思う。運営委員会の皆様や事務局の方々にも感謝したい。

コロナによる社会変容で良い面はオンライン学習が一般化したことだ。メイン講師の講義には別枠でオンライン学習生が参加できた。私も当初は zoom という学習形態に戸惑ったが、回を重ねるごとに慣れてきて、自宅から参加できる手軽さはもう手放せない。半面、zoom の限界と直接顔を合わせることの大切さも改めて感じた。

コースを通じて子育て世代の柔軟な考えに触れられた。情報を精査して自分で組み立てなおすことの重要性を再認識するとともに、自分の意見を自由に表現できる社会をあたり前と思ってはいけないのだと最近の世界情勢を鑑みて思う。コースで取り上げたシチズンシップ、創造力、批判的思考など大人こそ身につけていなければならない。子供たちへどのような社会をつなげていくのか。社会があるべき方向へ向かうためには何をすべきなのか。私たちの行動が次世代に見られていることを常に意識していたい。

学びを子育てに生かすこと　R. N.

この講座を知ったきっかけは、子供が学校から帰ってきたチラシを見たことでした。子育てをしていると、環境の変化がめまぐるしいことや自分の子供の時とは全く違う状況のため自身の経験が役に立たない等の心配事が多いので、この講座のタイトルを見た時「ぜひ受講してみたい。」と思いました。受講希望者が多数で抽選だったそうですが、参加することができて本当に良かったと思います。

受講内容は多岐に渡っており、子育て、教育が色々な分野に関わっていることが分かりました。今まで考えたことのないような題材もあり勉強になりました。今後も世の中の変化が進む中での子育ては悩みが尽きないと思いますが、その都度立ち止まり今回学んだ多くの視点で物事を考えていきたいと思います。そしてそれを子育てや私自身の未来にも生かせるようになりたいです。

今回のような座学は久しぶりでしたが、学ぶ楽しみを認識することができました。またメンバーの方々とお話しできることも楽しみの一つで、それぞれの意見や経験をきけたり、共感を得られたり、と貴重な時間でした。このような機会を得られたことはとても幸運だったと思います。これからも学びを続けて子供とともに私も成長していけたらと思います。

一年間の受講を振り返って　F. N.

コロナ禍も２年目となり、緊張した日々が続く中で、本年度も開講してくださり先生方や関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

また、このような状況のため、全て受講できずご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。拝聴したい内容でしたが、直前まで悩み仕方なくお休みをさせていただきました。

時間に追われ、ネットのニュースを時々急いで読む程度でしたが、各方面の先生方から今現在、国内外で起きている、環境や教育問題、心理など多岐に渡り素人でも理解できるよう資料を交えながらわかりやすく、丁寧に教えていただきましてありがとうございました。身近な問題として深く掘り下げて考えられるようになりました。

また、人と会う機会も減り世間と離れて生活をしていたように感じていましたが、受講生の皆様とお話しさせていただくうちに、気持ちも明るくなり、時には悩みを相談させていただいたりと、周りに知り合いがいない私にとりましてとても貴重な時間を過ごさせていただきました。

自主学習の中で、積極的にグループで話し合いをし、新聞記事の内容について考えた時間は大変印象に残りました。

また、各委員の皆様におかれましては、お忙しい中、授業時間外に会議にご出席いただき、講座を円滑に進めるためにお時間を割いてご尽力くださり、誠にありがとうございました。

最後に、この原稿を書いている間に歴史が大きく動き、安心して学べることのありがたさを実感しております。世界中の子どもたちが笑顔で幸せに暮らせる日が来ることを強く願います。

受講を終えて　S. Y.

子供を通し日々思うこと、悩むこと、学ぶことはたくさんありますが、自分の中にある知識や考えの範囲での思考になりがちでした。しかし、今回第一線でご活躍されている先生方の授業により、今の日本の教育の現状や新しい知識、考え方を知る事ができたと思います。常に疑問を持つ事の大切さを教えていただきました。

魅力的な先生方の親しみやすい授業内容が楽しく、とても刺激を受けた１年間でした。

この貴重な時間を与えていただき、感謝申し上げます。

講座を受講して

H. M.

今回、私が講座を受けて思うことは、教育は子供に対してのものだけでなく、私自身も日本の教育の影響を受けているということです。

私は、自分の意見を言うことが苦手で、ましてや人を批判することなどできません。

これまで、これは自分の性格なのだと思っていましたが、講座を受けて、これは性格の問題だけではないということがわかりました。

ある講座で、教員環境の国際比較が紹介されました。それは、先進諸国の小中学校の先生にどのように授業を進めているかについて、アンケートしたものです。

その中の項目に、「批判的に考える必要のある課題を与えているか」という質問がありました。「行っている」と答えた教員の割合が、参加した 48 か国の平均は 61.0 パーセントであったのに対し、日本は 12.6 パーセントしかありませんでした。

私が批判的な意見を述べることができないのは、そういった訓練を受けていないからなのかと思いました。

どうしたら、批判的な意見を言えるようになるのでしょうか。

私は、講座で、生徒が主体となって学校のルールを作る活動をサポートする団体のことを知りました。「自分の意見が尊重された」「自分が動けば変わる」と実感できる機会を中高生に、という思いで始めたそうです。

私は、その活動に刺激を受けるとともに、市民大学と似ていると思いました。私も数か月間、市民大学に通い、自分とは違う育児をしている方やお子さんが成人された方と話す中で、自分の意見を少し言えるようになりました。

先行きの見えない現在において、市民大学のように自分の意見を言い合える場が増えていくことを願っています。

コロナ禍からのグリーンリカバリー

～ SDGs と日本経済～

講師：白　井　さゆり
（慶応義塾大学総合政策学部教授）

メイン講師によるオンライン講義

コロナ禍からのグリーンリカバリー ～SDGsと日本経済～

講師　白　井　さゆり

三鷹市民大学では８回の講義を担当させていただき、毎回沢山の質問をいただき充実した時間を過ごすことができました。市民の皆様からは当初から講義の進め方について沢山のアドバイスをいただき、その熱心さに感銘を受けました。皆さまの中には私の専門書をお読みいただいた方もいて、その学習意欲の高さには頭が下がる思いです。

講義では世界経済情勢と日本の概観から始めまして、最近日本でも注目が集まる環境・社会・企業統治(ESG)を中心とした話題にいたしました。国連持続可能な開発目標(SDGs)は日本でもよく知られるようになっていますが、各国が2030年までに達成すべき詳細な目標を掲げたものです。この目標の実現のためには政府だけでなく市民や企業の意識が大きく変わっていく必要があり、意識の高い市民の皆様に現在世界で起きているトレンドを理解していただきたいと思い講義を準備いたしました。

また企業が行動を変えていくには市民の強い後押しが不可欠なのです。従来の企業のCSR活動では収益の一部をスポーツ大会などさまざまなイベントを主催し、地域の植樹やボランティア活動などで企業の社会的責任を果たすことが中心となっていました。それは引き続き重要なのですが、SDGsを達成するには本業のビジネスの在り方(たとえば調達した原材料に児童労働がかかわっていないか、工場で排出される温室効果ガス排出量が増えていないかなど)がESGの観点から整合性がとれているのか見直し、とれていないのであれば今から段階的に改革していく必要があります。これがESG経営と呼ばれているものです。

講義ではEGS投資の世界の潮流、新しいESG経営、環境に配慮した経営、人権や労働など社会的側面を重視した経営、ESG投資家としての年金基金などのお話をいたしました。私の専門分野である金融政策についても最近の環境を重視した政策についてご紹介し、最後の講義では、コロナ危機以降に世界で進んだ財政・金融の政策協調や現代貨幣理論(MMT)との違いについてお話いたしました。私の講義が少しでも市民の皆様のお役にたったのであれば嬉しく存じます。

プロフィール

米国、欧州、中国を含むアジア新興国など世界各国の中銀・政府関係者、国際機関、金融機関、有力な海外メディアなどが主催する国際会議や討論会などで講演・パネリストとして出席し率直な意見交換を実施している。海外ＴＶ番組のCNBC、ブルムバーグ、中国国営放送の海外英語番組などにコメンテーターとして頻繁に出演。国内でも複数のテレビ・ラジオ番組で日本経済や金融政策、世界経済などについて解説。ジャパンタイムズ紙にも数多く寄稿。世界の金融政策や経済記事を扱う英国系の国際金融情報サービス会社ウエブサイト「Central Banking」などにも多くの専門記事を執筆。時事通信の金融財政ビジネスの巻頭言を担当。英国系ESG関連のエンゲージメント専門会社の上級顧問。食品関係の社外取締役を兼任。金融政策やデジタル通貨等に関する英語での書籍も複数出版。

自主学習

自主学習

市長との記念撮影

●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
1	5月14日	開講式・オリエンテーション	自主学習１
	企画委員自己紹介、運営委員の選出、オンライン講義時の注意事項について検討をおこなった。		
2	5月21日	世界経済情勢と日本	慶応義塾大学総合政策学部教授 白井さゆりさん【オンライン】
	世界経済は日本含む先進国割合低下。日本は一人当たりGDPの持続的上昇を追求すべき。		
3	5月28日	金融の目線でひもとくESGとSDGs	白井さゆりさん【オンライン】
	長期志向の投資家が短期的利益追求や株価上昇だけでなく社会的に責任ある投資を追求し企業の行動を促す。		
4	6月4日	企業価値を高めるためのコーポレートガバナンス	白井さゆりさん【オンライン】
	中長期資金の日本への誘因を図るためにも企業統治改革(社外取締役、少数株主保護等)が必要。		
5	6月11日	持続的な経済社会とは 真に持続的な国家とは	明治学院大学国際学部教授 熊倉正修さん
	デフレ対策を進める一方、日本の財政規律懸念。火傷しないと日本は変われないのでは。		
6	6月18日	行動経済学と「ナッジ」：意思決定は合理的か	一橋大学大学院経済研究科准教授 竹内　幹さん
	人は社会規範と市場規範のバランスで生きている。規範を前者から後者に置き換えてしまうと元に戻れない。		
7	6月25日	環境問題が変える企業経営	白井さゆりさん【オンライン】
	ESG投資の更なる拡大を期待。情報開示・モニタリング改善が必要。日本企業の投資計画・ビジネスモデル変革が重要。		
8	7月2日	クリティカルシンキングで考える経済現象	杏林大学総合政策学部教授　西　孝さん
	温暖化対策は外部性があり市場の失敗。政策選択は経路依存性があり良いものだけが残るとは限らない。		
9	7月9日	自主学習	自主学習
	1学期の感想共有。２グループに分かれて講師への質問内容の決定。２学期以降の自主学習の検討をおこなった。		
10	9月10日	社会的責任を意識した企業経営	白井さゆりさん【オンライン】
	企業行動に関連する国際的イニシアティブの動き紹介。サステナビリティに関する企業の対応手順。ESG課題。		
11	9月17日	投資家の目指すESG投資の在り方(GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人)による投資と世界の動向)	白井さゆりさん【オンライン】
	金融庁スチュワードシップコード改訂で機関投資家に、エンゲージメント実施、議決権行使の情報公表を求められることに。		
12	9月24日	自主学習	自主学習
	「SDGsに理解を深め、(17)カテゴリーの目標を考える」をテーマに、グループ討議をおこなった。		
13	10月1日	コロナショックと農業政策	東京大学大学院 農学生命科学研究科教授　鈴木宣弘さん
	生産者と消費者が支え合う「強い農業」つくり必要。再生可能エネルギー普及が農地の乱開発に悪影響懸念。		
14	10月8日	経済安全保障	ルール形成戦略研究所所長　國分俊史さん
	中国は軍事、ルール形成、成長市場獲得、社会統治システムの新潮流を味方に技術覇権争いを展開。日本及び企業は注視対抗。		
15	10月15日	アメリカと日本の 100 年：1921 ～ 2021	国際基督教大学名誉教授 スティールM. ウィリアムさん
	市民大学公開講座		
	10月16日	小惑星探査機「はやぶさ２」～その成果と舞台裏～【オンライン】	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチームサブマネージャ　中澤暁さん
	市民大学公開講座		

回	日　付	講　　義　　名	講　　師
	学　　習　　内　　容		
16	10月22日	人とＡＩとの共生に向けた課題	慶応義塾大学理工学部教授 栗原　聡さん【オンライン】
	ＡＩが得意な分野に人は不要。人が得意なのは、多様なモノの見方(直感)、創意工夫、臨機応変、適応力。		
17	10月29日	自主学習	自主学習
	三鷹市環境政策課茂木課長から『三鷹市環境レポート2021』についてお話を伺い、グループ討議をおこなった。		
18	11月５日	循環型社会と経済成長	中部大学経営情報学部教授 細田衛士さん【オンライン】
	私益と公益が両立する経済社会を作り上げる必要。グリーンニューディール実現難しく、経験上カーボンニュートラルも簡単な道筋でない。		
19	11月12日	持続可能な農業とは	恵泉女学園大学人間社会学部教授 澤登早苗さん
	持続可能な農業は、生産性向上だけでなく人権、将来世代への配慮等、環境や社会的な課題にも配慮されたものであるべき。		
20	11月19日	自主学習	自主学習
	フェスティバル代替としての展示物内容検討		
21	11月26日	自主学習	自主学習
	展示物作成		
22	12月10日	宇宙から見るSDGs	上智大学経済学部准教授 倉田正充さん
	衛星データから国際協力事業評価、社会経済指標、大気汚染と乳幼児の健康の分析事例紹介。		
23	１月14日	グリーンエコノミーを考慮した金融政策	白井さゆりさん【オンライン】
	日銀も積極的に気候変動対応に関与すべき。一方当初日本のキー政策と主張していたカーボンプライシングは景気への影響から導入困難との認識。		
24	１月21日	金融政策と財政政策の課題	白井さゆりさん【オンライン】
	MMTの正しい理解の仕方を説明した上で、実行上の課題の大きさから金融政策効果には疑問。		
25	１月28日	自主学習	自主学習
	『SDGsと三鷹市及び三鷹市民の取り組み』の発表及び三鷹市長へ提言をおこなった。		
26	２月４日	未来の金融	一般社団法人 共同通信社編集委員 橋本卓典さん
	銀行の機能は今後とも生き続ける。しかし今の銀行が存在し続けることができるかは分からない。変革の共感は「他人事を自分事に」から。		
27	２月18日	混迷する世界を読み解く	神奈川大学副学長　的場昭弘さん
	現在の経済関係を動かしているものを見ること。思考法はアナロジー、弁証法、レトリック、研ぎ澄ます姿勢、独立自尊。ウクライナ問題に対する世界と日本の見方。		
28	２月25日	豊かな未来のために 環境問題を経済学で解決	早稲田大学政治経済学術院教授 有村俊秀さん
	脱炭素には炭素税か排出量取引が必要。後者は低費用で削減できる合理的方法。経済界からの反対も薄らいできたのでは。		
29	３月４日	自主学習	自主学習
	学習生の活動紹介発表をおこなった。(計５名)		
30	３月11日	自主学習	自主学習
	全員でメイン講師、ゲスト講師、展示物作成、自主学習について感想を述べあった。		

地球温暖化防止について　I. T.

コロナ禍の中で市民大学を開催して頂き関係者の皆様に感謝を申し上げます。SDGs（地球環境問題）に関心があったので受講することとし、地球環境問題の解決に向けて経済面からのアプローチについて学習することができたと思っています。

昨今、異常気象の多発や生物の絶滅をよく目にし、旱魃による異常高温、大雨による洪水や浸水、海水の熱膨張や氷河の解凍による海上水面の上昇等地球環境は大きく変わりつつある。地球温暖化には温室効果ガス（二酸化炭素等）の影響が大きく、18 世紀半ばの産業革命以降現在までに地球の平均気温が 1.2 度上昇し、この上昇が続けば 2050 年には 1.5 度を上回ると云われています。国連気候変動枠組み条約締結国会議 COP21（英国グラスゴー：2021 年に開催）において 1.5 度以下に抑えることを全ての参加国と地域が合意し、温室効果ガスの削減等温暖化防止に向けて努力することを約束した。

地球環境を守るためには、行政だけに任せるのではなく、行政（国や公共団体）、企業、個人のそれぞれが温暖化防止に取り組み、それらに向けた賢い行動と選択が必要となる。

今回の学習では、ESG 投資が企業の社会的責任を果たす誘導策となること、カーボンプライシング（炭素税、排出量取引制度）が脱炭素に向けた効率的な政策手段となることなどの講義をうけた。

しかし日本においては ESG 投資額が少なく、炭素税の価格も低く、排出量取引も国としては実施していない状況にある。今後我々にはこれらを積極的に取り入れるとともに脱炭素に係るイノベーションにより地球温暖化を防止し、将来の人類等に少なくとも今の地球を引き継いでいく必要がある。

独立財政機関　を考える　K. E.

人々は大量のエネルギーを消費し豊かになってきたが、その影響は地球温暖化。温室効果ガス排出量を削減しないと、すでに上昇している気温がさらなる気温上昇を招き、適応策を強化しなければ様々な分野に悪影響を及ぼすという。温暖化、収束を見せない新型コロナウイルスいずれも不安が影を落とす。

ここで私たちの国は、財政赤字、それに伴う膨大な政府債務があることを忘れてはならない。加えて、コロナ対策で大幅な財政支出が必要になったことはやむを得ないが、不必要なものも多い。経常収支が黒字とはいえ債務も増大している。その黒字の時、そして国債を国内で保有できている時期こそ債務の削減との思いが強くなる。財政健全化のため財政状況をチェックする機関、政府を監視する制度は無いものか。将来不安が加速する。

講義で他国には独立財政機関が設置されていることを知りました。OECD によると独立財政機関は「政府や政党からの独立性を有し、中立的な観点から財政状況等を管理・評価し、必要に応じ政府に対して提言等を行う公的機関」としている。政治の関与を受けず、経済や財政の分析予測、政策効果を中立的な立場で評価することは良い。数年前から経済同友会、昨年には国会議員からも声は上がっているようだが、未だ設置には至っていない。 OECD 加盟国では、すでに設けている国は数か国あったが、リーマン後には数多くの国で設置されている。議会予算局（立法）予算責任局（行政）と国ごとに異なる。専門的なことはわかりませんが、設置に対して議論する余地は大いにあるよう思われる。財政が必要な政策に対して適切に使われているか監視、検証し政府から完全独立した中立的な専門機関であって欲しいし、望みたい。

考察地球温暖化問題

小　口　喜一郎

熱心に指導頂いた白井先生及び講師の方々、運営された三鷹市、自身に刺激を与えた生徒に感謝する。

難しさの背景

地球温暖化問題の難しさは、①将来深刻な被害を及ぼす経済的損失や範囲が、今後の人間の営みと地球への影響想定となり不確実性が高い、②一方比較的想定容易な現時点での対策については移行費用含めた社会・経済的コストが莫大で、影響も広範囲に及ぶ可能性が高く、世界中の人びとの負担増が避けられない、③更に地球規模の問題であるにも拘わらず、解決の主体が、国益第一を基本とする各国政府、そして競争に身を置き利益追求を優先する企業に委ねられていることである。

今後の国、企業の動き

上記の背景の中、一部のグリーン化が容易な国やビジネスとなる企業を除く大多数の国や企業は、目標は見据え基準や規制は守りながらも、急進的な変革は避け、他国や他企業の動向を見つつ環境と経済との両立を図っていくことになる可能性が高い。結果的に2050年地球温度目標到達は厳しくなるかもしれない。

期待される政策

しかし問題解決の方向性は明確で、多くの先進国のエネルギー政策で二次エネルギーは電化、一次エネルギーでは脱炭素を進める。我が国では政策の基本のＳ＋３Ｅは堅持され、再生可能エネ・天然ガス・場合により原子力も加えたエネルギーミックスを志向することになる。また技術開発含む対策に要する莫大な資金は本来的に国、自治体の公的資金が充てられるべきである。同時に排出権取引を含むカーボンプライシングについても企業・市民の省エネ推進を徹底した上での導入は不可避である。尚企業に行動変容を促す効果を期待されるＥＳＧは制度自体課題多く普及は未知数である。

満足した今年度の講座

小　原　英　之

コロナ禍でどうなるのか心配された今年度の講座でしたが大変満足しました。

まず、教授陣が素晴らしかった。白井さゆり先生始め著名な先生方の講義に直接触れられるというのは書籍や新聞雑誌からは得られない貴重な経験をさせていただいたと思っています。

白井先生は受講生と一緒に考えて行こうという姿勢で質問には丁寧に答えていただき感謝しています。熊倉正修先生の講義では表題の「持続可能な経済社会、国家とは」と全く反対の金融政策が行われていることに先行きの不安を感じました。竹内幹先生の「行動経済学とナッジ」では「一度手にしたものは手放すことを人は嫌がる」ことを実感した講義でした。西孝先生は経済学の基本単語５つを解説されました。日本経済の現状を見ることが出来たような気がしました。鈴木宣弘先生の武器としての食料を考える米国には、現役時代に農業分野に関連した仕事を経験した身には実感として伝わりました。橋本先生の「自分事の仕事のみ遺産となる」満鉄の話は目先の利益を追い求める今の企業経営者に聞かせたい話でした。的場昭弘先生のウクライナ問題を読み解く話は一触即発の現状の裏にある歴史的な問題が複雑に絡み合っていることを知りました。メイン講師の白井先生の講義はオンライン参加が認められましたが、ゲスト講師の方々の講義はわずか10名そこそこの受講生だったのはもったいない気がしました。運営方法が難しいでしょうが、今後に備えて検討していければよいなと思いました。最期に運営委員の方々と担当の仙波さんに「有難うございました‼」

日本の個人の豊かさとSDG's環境

K. T.

SDG's の一つの必要要素としては Economic Sustainability が上げられると考える。この要素は世界、国、社会等あらゆるレベルで必要であるが、日本の風土、現状が一個人に対しどの様な状況であるか考えて見た。

コロナで話題になったのが飲食業界、特に居酒屋だが、お酒を提供出来なければ経営が成り立たないと言ったこともあった。日本では駅周辺に数知れない居酒屋があり、そこで大量なお金、時間、労働が消費されている。イギリスは pub、イタリアは bar が社交場だがそれ程時間とお金は使われていない。売上は経済活性化に繋がるが飲食物は排出物にしかならない。代わりにこの資金、時間を re-learning, PFI、投資等に使った方が個人の持続に繋がる。

個人の一番大きな出費と言えば住宅だと考える。日本では住宅の寿命は 30 年位とされている。イタリア、イギリス等では 100 年前の住宅はざらである。これは個人の資産の蓄積に繋がり、もし住宅の寿命を長く出来れば浮いた資金でソラーパネルを付ける事も出来る。再建の資源使用及び廃棄物も減る。

消耗品で大きな出費は自動車がある。技術の進歩によりここ 50 年で格段と性能が良くなっている。然し車検制度は変わっていない。車検を理由に買い替えられ、その中古車は海外に輸出され、性能の良さで非常に人気が高いと聞く。これも日本人個人の資産減でもあるし新たな製造資源の使用でもある。又日本では修理用代用部品供給は一般的に 10 年と聞く。それ以降は部品が無く修理が出来ないことがあり、これも個人資産を減らす要因で持続に繋がらない。

上記の様に日本では個人の SDG's 環境は良くない。政府、企業の blah blah blah では SDG's の限界がある。個人、企業、政府の考え方、習慣、慣行を変えなければ実現出来ない。

デジタル資本主義

瀬　賀　登茂枝

私が「デジタル資本主義」という言葉を初めて知ったのは、立教大学ビジネススクール大学院教授田中道昭氏の著書『2025 年のデジタル資本主義』という本でした。

その“はじめに”の 1 行目「デジタル化されたものは破壊される」それが「デジタル資本主義の本質だ」～の言葉に衝撃を受け「デジタル敗戦国日本」の相手とされる GAFAM について、読んだり調べたりする中で、なるほど Digital Disruption とは、こういうことなのか～とわかったつもりになった？のでした。

その筆頭。マネーが Digital Currency になる。そして現れたのが仮想空間といわれる Metaverse（Meta 超と Universe 宇宙の造語）の世界です。

恐ろしい世界であると同時に、こんなにおもしろい時代に生きていられるなんて、なんとラッキーなのだろうか～とも思うのです。

すでに日本でも昨 2021 年春、渋谷区公認の仮想空間「バーチャル渋谷」が開始し、今年 2 月 28 日には、2025 年の大阪・関西万博に向けた「バーチャル大阪」がオープンしました。

Facebook は、プライバシー保護等を批判されもして社名を Meta に改名し、今後はメタバースの世界で新しい価値を生み出していくとのことです。

ところで京都高台寺の観音様「マインダー」は、アンドロイドで、お参りに行くと悩める人々に『摩訶般若波羅蜜多心経』を唱え、法話をしてくれるそうです。

観音様もデジタルになる時代なのですね。

「天と地がひっくり返る」とも言われる「デジタル資本主義」ですが、さて丁と出るのでしょうか、半と出るのでしょうか。

うすらいの薔薇のはなびら二片落つ

受講を終えて　T. H.

本年度は、コロナ禍での開催でもあり学習生も例年の半分（15名で、リモートのみでは５名の追加）で、メイン講師の白井さゆり先生からZoomでの講義を受講させて頂きました。講義の区切りには質疑時間を取って頂き、教室の学習生及びオンラインの学習生はチャット形式で質問し、先生から最新かつ詳細なお答えを頂き熱意を実感しました。

地球温暖化が急激に進行する昨今の環境では、SDGsに向けて、国、企業、自治体さらに各個人がどう効果的に取り組かが課題となります。企業は、ESGを見える化して、情報開示することが、急務となります。ただ、日本では欧米諸国に比べて若者や企業のSDGsへの意識はまだ十分とは言えず、各自治体でも温度差もあります。

そこで、学習生同士の自主学習やビデオの視聴、三鷹市職員からの講義や質疑、更に三鷹市長への提言等の活動を通してかなりSDGsへの意識が向上して行きました。これらの活動によって、三鷹市の景観に多大に寄与している農地の今後の活用にも意識が広がり、2022年の生産緑地問題も認識するようになりました。

本年度は、コロナ対策のため、例年のフェスティバルは中止となり、学習成果を発表する展示物の作成は取り止めとなりました。しかしながら、学習生や運営委員の熱意もあって、是非展示物を作成したいとの機運が高まり、完成且つ学習生同士の質疑で理解を深めあったことは、意義深いと感じました。

宇宙からのSDGsとのテーマでゲスト講師の倉田正允先生の講義では、気象衛星からの森林減少や大気汚染状況をgoogle earth engineで誰でも無料で観察可能なことを知って実際に試み、より実態を再認識できました。

１年間の受講を終えて　Y. H.

私が今回経済コースを受講した理由は、コロナ禍で社会の在り方が変化し、経済も変化していく中でどのような方向に向かっていくのだろうと漠然とした疑問が生じたこと、また子どもが大きくなった時、今の自分で社会・経済の話ができるだろうか？と考えた時にこのままではいけないと思い応募したのが始まりでした。経済に疎かったので初回の受講生の顔合わせの際はついていけるか不安に思うこともありました。しかし、いざ講座が始まってみると講師の白井先生の話は大変興味深いものばかりで、わかりやすく講義をして下さるので２時間頭はフル回転でしたがあっという間の時間でとても楽しいものでした。またその他の先生方の講座も興味深いテーマで毎回楽しみに受講をしていました。簡潔に言えばSDGsと経済は密接であることがよくわかりましたし、様々な視点からの経済・SDGsの考え方を学べたのは貴重な時間でした。日本社会がこれまで以上に気候変動に関心を持つことや、さらにはSDGsを企業だけでなく個人レベルでも取り組みが可能なところは積極的に参加していく事が必要だと思いました。

また、受講生の方々がとても勤勉な方が多く、とても良い刺激を頂きました。子どもにも仕事以外のことでも学習をする姿勢を見せることができてよかったと思います。今回学んだことをベースにさらに知識を深めていきたいと思いました。

最後に市民が積極的に学べる取り組みはとても素敵だと思います。このような活動から地域活性や発展につながると今回改めて感じました。このような学びの機会に参加させてもらえたことに深く感謝申し上げます。

未来を考察する「経済」の視座＆ SDGs への覚醒と行動　　森　井　紀　明

今回、５・６年前の「科学」以来、久々に参加申込をしたのは、白井先生がメイン講師と知ったからでした。白井先生の講義は、計８回、世界経済＆日本から始まり、気候変動問題・SDGs を踏まえた経済や企業経営のあり方、ESG 投資や金融の枠割、金融政策＆財政政策の展望など、一年を通じて、今後の実体経済＆市場経済を考察する上でコアとなる視座を学ぶことが出来まして、大いに刺激を受け、啓発され、期待通りでした。

毎回、個別のテーマでご登壇いただいた各先生方の講義も、経済安全保障、宇宙からの衛星データ、農業政策、AI との共生等、新たな視点や示唆を与えてくれる内容も多く、企画委員や生涯学習課の方のご尽力に感謝しつつ、充実した時間を楽しみました。

自主学習では、初めて運営委員となり、学習生のアンケート結果を踏まえ、毎回の学習内容や運営の具体化に積極的に取り組み、SDGs に係る理解を深めての意見交換、三鷹市・環境政策課長の登壇、フェスティバル代替の展示物作成など、コース主題との関連性を意識した展開を図りました。特に、別件で河村市長とお会いした際に、その場の勢いもあって三鷹市への提言を提案したところ、有り難くもご快諾いただいたことから、他の学習生のご理解・ご協力も得て、展示物作成の一つのテーマとして、学習生の方々と共に調査分析や議論を進め、実際に１月、河村市長にお越しいただき、パワポ資料も作成の上、「SDGs と三鷹市及び三鷹市民の取り組み」としてプレゼンさせていただき、市長の御話も伺えたのは格別の経験となりました。実は、５年前の「あゆみ」原稿作成の際、単に学ぶだけでなく、市民大学の本義に沿って何が出来るかとの問題意識に至っていたので、今回は、総合コースの掲げる「目的」も参照し、その趣旨に合致するものと考えて、チャレンジしてみた次第です。遅まきながら、SDGs に目覚めたことで、実は仕事の方でも、自分も関与して一段の取り組みを進めることになり、学びから行動へ、未来に繋がる講座となりまして、本当に感謝しております。

私たちは渾沌の時代を どう生きるべきか

講師：平　原　　卓
（哲学者）

イラスト：武田香織

一年をとおして
悠久のときをかけてはぐくまれた
哲学者たちの哲学に思いを馳せてきました。
想いは未来へとつないでいきます。

私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか

講師　平　原　　卓

哲学を含む思想の中心的なテーマの一つは、正しさの普遍的な本質を解明することにあります。正しさは、私たちの生活一般の根本を支える概念だからです。

正しさの観念が失われると、生じるのは戦争です。

戦争は、正しさの観念から有効な力が失われたことを示し、道徳という観念を無効にします。戦時中の「戦争を止めよ」という大声ほど、貧弱かつ無力感を呼び起こすものはありません。というのも、その声が戦争の当事者には届かないこと、また、その声を持たない状態がまさに戦争であるということを、私たちは暗黙のうちに感じているからです。

ホッブズが的確に洞察していたように、戦争は、それを引き起こす条件が満たされれば、起こらざるをえません。戦争が起こったあとで「戦争をどうすれば防げることができるか」と考えても遅すぎます。自然災害が起こってから「どうすれば自然災害を避けられるか」と慌てて対処する行政のあり方を私たちは正当に批判するように、戦争が起こってから戦争を終わらせるための方法を慌てて考えるような思想のあり方は、批判されなければなりません。なぜなら戦争に対する思想の根本的な課題は、平時のうちに、戦争を避けるための可能性の原理を、徹底的に鍛えておくことにあるからです。

時代の課題が戦争にのみあるのではないこと、これは明らかです。だが、正しさの普遍的な原理を定めることができなければ、自由な社会を創出することはできず、万人が充実した生活を送るための可能性を導くことができないことも同様に明らかです。

自分が講座を通じてお伝えしたかったこと、それは、原理的思考だけが、戦争を終わらせ、自由な社会を創出する可能性の根本的条件を解明することができるということです。そのことが、自分のつたない講義でどれだけ伝えられたか心もとないところもありますが、一年間、お付き合いいただきありがとうございました。またどこかでお会いできることを楽しみにしております。

プロフィール

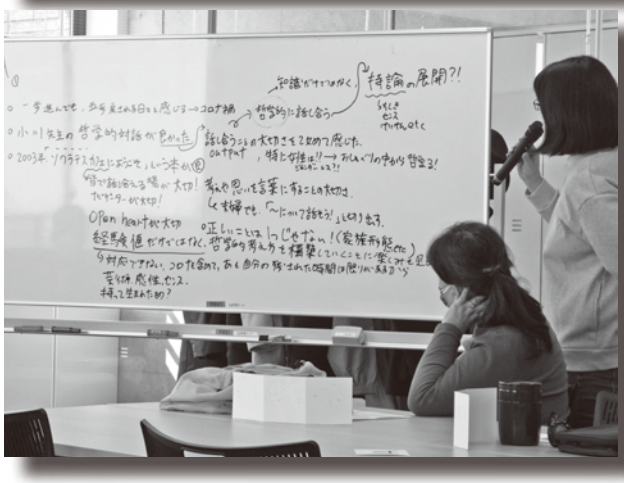
【肩書】
哲学者

【プロフィール】
1986年北海道砂川市生まれ。早稲田大学文学研究科修士課程修了（人文科学専攻）。哲学者。現在、東京工芸大学非常勤講師、大阪経済法科大学21世紀社会総合研究センター客員研究員。

＜主な著書・論文＞
著書に『読まずに死ねない哲学名著50冊』（フォレスト出版）、『現象学とは何か』（共著、河出書房新社）など。論文に「現象学的社会学の認識論的再検討」（『本質学研究』）など。

講座の様子

自主学習の様子



●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
1	５月14日	開講式・オリエンテーション	自主学習
	学習生の自己紹介、運営委員の選出		
2	５月21日	①哲学の基本の考え方－哲学的思考の原理と目的	哲学者　平原　卓さん
	キーワードは「本質の共通了解」。哲学の根本問題である認識問題に関して「主客の一致」の証明など哲学の歴史を概観		
3	５月28日	②哲学以前の思想－神話と宗教の意味について	平原　卓さん
	哲学以前、「正義」は神話や宗教により、具体的な形で描かれていた（①死を意味付ける、②秩序を保つこと）		
4	６月４日	③近代以前の正しさについて　プラトン『ポリテイア（国家）』	平原　卓さん
	哲学は「開かれた言葉のテーブル」。タレスは物事の根本を「水である」とし、クセノパネスは「主客の一致」に通ずる思考を先取りしていた		
5	６月11日	自主学習（今後の講義の進め方に関して議論）	自主学習
	各グループからの発表①哲学とは学ぶものか、行うものか②テーマの「渾沌の時代」に答える③哲学史を学び、議論する場		
6	６月18日	私たちはどんな世界を生きているか	東京外国語大学名誉教授 西谷　修さん
	哲学の役割は「私たちの今を知り、どう向き合うのか」。必要なのは「社会」意識を養うことと「公共性（皆のもの）」		
7	６月25日	自分の人生を哲学する【オンライン】	東洋大学ライフデザイン学部教授 三浦節夫さん
	生い立ちから影響を受けたことについて解説。良縁も悪縁もすべて受け入れる、「今の私」になるにはそれも含めて人生		
8	７月２日	④認識の普遍性（１）デカルト『方法序説』『省察』より	平原　卓さん
	「我思う、故に我あり」→誰にとっても当てはまる「認識」は成立しない→客観的認識は主観によって構成される		
9	７月９日	⑤認識の普遍性（２）フッサール『現象学の理念』より	平原　卓さん
	哲学で論じるべきは事実ではなく本質。「本質観取」とは借り物の言葉ではなく自分の感じた概念を表現するもの		
10	９月10日	自主学習：プラトン『饗宴』読後感想会	自主学習
	夏休みの課題で『饗宴』を読んで参加。グループに分かれて感想を共有し、まとめ、発表を行う		
11	９月17日	⑥正義の普遍性（１）カント『実践理性批判』より	平原　卓さん
	私たちには神を前提にすることなく、欲望を引きはがして自ら構想した善に即して自律的に行為する可能性がある		
12	９月24日	自主学習：映像の世紀　視聴＆感想会	自主学習
	今日にまで禍根を残すことになる第一次世界大戦の回を視聴。グループに分かれて議論、各グループ単位で発表を行う		
13	10月１日	終末期医療～人間としての尊厳について	芦花ホーム常勤医　　石飛幸三さん
	自然な最期は体の中を整理して余計なものを捨てて、捨てて、身を軽くして天に昇って逝く。「平穏死」		
14	10月８日	自主学習：ゲスト　福井史枝さん（ピアニスト）	自主学習
	ショパンとリストの曲を演奏。曲ごとの解説は楽器、音、リズム、テンポ、弾き方、タイトル、時代、国など多くの視点から		
15	10月15日	自主学習：【公開講座】アメリカと日本の100年：1921 ～ 2021	国際基督教大学名誉教授 スティールM. ウィリアムさん
	10月16日	【公開講座】【オンライン講義】小惑星探査機「はやぶさ２」～その成果と舞台裏～	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチームサブマネージャ　中澤暁さん

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
16	10月22日	コロナ時代の哲学【オンライン】	社会学者　大澤真幸さん
	知っていることよりも、信じていることに従って人は行動するものだ。真に絶望したとき、人は希望を見出すだろう		
17	10月29日	⑦正義の普遍性（２）ヘーゲルの『法の哲学』より【オンライン】	平原　卓さん
	「人間とは衝動、欲望を持つ存在である」と受け入れる。道徳から社会制度へ「誰もが自由に生きられる条件とは何か」		
18	11月５日	科学知の有効性と限界について【オンライン】	名古屋大学名誉教授　池内　了さん
	科学では判断できない「トランスサイエンス問題」。みんなが納得できる方策を議論する「コモンセンス会議」のススメ		
19	11月12日	現代社会の変貌（ポストコロナを展望して）	法政大学教授　水野和夫さん
	神（聖書）・イコン（聖像）：魂から、資本（コイン）：物質的生活、そして舞台芸術：人間精神の今は「現在を楽しむ」		
20	11月19日	自主学習：これまでの講座の振り返り、哲学対話とは？	自主学習
	哲学対話とは仲間と一緒に山を登ること。「わからないこと」を大事にしてお互いに問いかける		
21	11月26日	自主学習：哲学対話をやってみよう①	自主学習
	テーマは「自由とは」。自由と権利の違いについて考えることを通じて、「自由」という山に一緒に登ることにチャレンジ		
22	12月10日	⑧正しさと実存について（１）ニーチェ『道徳の系譜』より	平原　卓さん
	「権力への意思」とはよきもの、優れたもの、力強いもの等への欲求のこと。一切の認識は欲求を条件として生まれるのだ		
23	１月14日	⑨正しさと実存について（２）ハイデガー『存在と時間』より	平原　卓さん
	存在について問える唯一の存在者である人間にとって、「世界」とは関心や欲望に応じて「編み上げられている」現象である		
24	１月21日	渾沌とした時代を哲学する／哲学カフェ【オンライン】	山口大学国際総合科学部教授　小川仁志さん
	哲学のトレーニングをしなくても哲学することはできる。思い込んでいることを疑ってみる。哲学対話でお互いの違いを知る		
25	１月28日	バッハを尋ねて	ヴァイオリニスト　戸田弥生さん
	戸田さんによるヴァイオリンの演奏。バッハ、イザイから「子供の夢」など４曲		
26	２月４日	自主学習：哲学対話をやってみよう②	自主学習
	「生きる」とは。「生きがいと使命」の違いを切り口に、ベン図上で両者の重なり具合もイメージして考えてみる		
27	２月18日	⑩現代社会における正しさの原理について（１） 竹田青嗣・西研『現象学とは何か』より	平原　卓さん
	「社会」の本質を考える。本質とは誰でも共通して「そうである」と言えること。私たちは何を「社会」と呼んでいるのか		
28	２月25日	自主学習（まとめ）	自主学習
	哲学コースのまとめを行う		
29	３月４日	「ポスト・メディア」時代のメディア	大妻女子大学社会情報学部教授　正村俊之さん
	情報は、送り手による表現・伝達→受け手の理解・受容。メディア（媒介）は権力、真理、貨幣、愛。今はネット、AIによる再編の中にいる		
30	３月11日	⑪現代社会における正しさの原理について（２）	平原　卓さん
	哲学とは取り組む姿勢であり、同一性も差異も強調することなく、共生してゆく土台として哲学は役立つ。多様性の承認		

「私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか」を受講し思うこと　石黒紀子

世界を震撼させた未曾有のパンデミック、コロナ禍２年目、三鷹市民大学は中止することなく市民企画プログラムを実施していただけました。ここ５～６年企画委員や受講生として参加し、今年度の“渾沌の時代をどう生きるべきか”、時宜を得た内容に惹かれての参加です。哲学コース、年間30回の内容を振り返ってみたいと思います。

メイン講師の平原卓さんは若手の哲学者、10回にわたり西洋哲学の系譜をベースにした講義。哲学とは？ソクラテス・プラトン・デカルト・フッサール・カント・ヘーゲル・ニーチェ・ハイデガー・竹田青嗣さんなどの哲学思想を伝えていただきました。

その上で主観と客観の認識問題を図を使って繰り返し解説、本質観取、共通了解については各グループに分かれて対話し発表という具体的実践を試みました。

まとめとして、哲学の役立て方についての問い？他者との対話を重視し、共通性と差異を認め合うこと、原理的（現象学的）に考えること。哲学は答を教えてくれるわけではない。原理を思考した上で、課題は個に帰し、他者との対話を通し深めることの肝要さについて認識を深めることができました。

ゲスト講師陣も大変充実し、現代社会で起きている具体的問題について、多くの示唆・教訓を課せられました。終末医療のあり方、科学知の有効性と限界、哲学的対話の実践など、現代社会が抱える具体的問題についても向き合うこととなりました。また、ピアノやヴァイオリン演奏の生演奏の機会が組まれ、贅沢なひとときを味わいました。

グローバル化する社会、政治の混乱、気候変動など課題山積の只中に生きています。

学びを形に！次世代のために何ができるのか？加齢を言い訳にせず、思考停止を危惧しながら、自己を見つめていこうと思います。

哲学コースを構成してくださった企画委員の皆さま、運営委員の方々、哲学対話を準備してくださった方、担当職員Ｓさんの細やかな配慮など。充実した学びの機会が得られましたことに感謝です。戦争のない平和な世界が何時かくることを願いながら！！

哲学で何かを見つけたい　清水昭二

これまで市民大学では、近現代史、政治経済を受講してきました。その中で日本人というのは日本国というのは、どういう判断基準を持つ民族なのか。次第にその裏側にある疑問点に触れるものとして、これ迄経験のない哲学コースに救いを求めました。

しかし、小生にとっては予想以上に難解なものでした。メイン講師の平原卓先生の著書に、「哲学を読む前に知っておきたい５つの心得」という次のような言葉がありました。１．あきらめずに粘り強く、自分の頭で考えながら読む、２．動機をすくい取るように読む、３．繰り返し読む、４．仲間と読む、５．名を残した哲学者だからといって必要以上に畏敬の念を抱かない、というものでした。

この為手に入れた哲学書は必ず２度以上、平原先生の著書は４度以上読みました。またコースの仲間から教わり、運営委員の方々そして講師の先生により「哲学対話」も３度経験することが出来ました。お陰様で今では何も判らぬまゝの拒絶感が薄まり、自分なりに色々なアプローチのし方が少しは出来るようになって来ているのではと期待している処です。

折角の哲学コースへの挑戦であり、今年も選択し、自分の成長を少しでも見出せればと夢を追っていきたいと思います。

私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか ～西洋哲学史～　　片　所　達　則

西洋の哲学をとにもかくにも、アテネのソクラテスから現代のハイデガーまで、通して学ぶ機会を得たのは、一年を通じて講座のある市民大学ならではのことだと思う。もちろん難解な哲学者の思想を１回の講義で理解することは到底不可能で、42.195㎞のフルマラソンを 100 m走のスピードで走るような感じで、息が続かなかったことも多かった。

講師の平原先生の親切な伴走で、落ちこぼれることなく、やっとゴールに辿り着くことが出来た。講義の中で、10 回以上出てきた「主観＝客観モデル」のモデル図による説明は、だんだん蓄積されて、自分の頭の中にもやっと入ってくることができた。

一緒に学んだ世代の異なる仲間たちとの会話も、いろいろな発見があった。哲学対話、グループ討論と称して、人生論や世代論に陥り、たぶん本題から外れているのだと思うこともあったが、はずれたところにも、有意義な時間を十分に感じることができた。開講時よりも、最終講義の時には明らかに講座の質感が上がったのは、クラス全員の力だと思う。

しかしながら、哲学のゴールはまだ見えていない。期間中は、コロナに翻弄され、常にマスクをし続け、終わるころには、ロシアとウクライナの戦争まで起きてしまう始末だ。アテネの時代から現代まで、人間の叡智を集めてきたはずの哲学（史）も、正直、今のこの世に中には全く無力な気がしたのも紛れもない事実である。西洋の哲学も、資本主義も、なんとなく終末を迎えている気がしないでもない。今回の講座では扱っていない、仏教や東洋的な思想史からもう一度、見てみる必要があるのではないか。そんなことを思うようになったのも、西洋哲学史を通しで学べた結果だと思う。人生後半ですが、哲学はまだまだ第２コーナーを回ったところなので、来年もまた受講しようかと思っている。

講師の平原卓先生、事務局の皆さん、企画委員の皆さん、そして素晴らしい音楽を演奏してくれたプレイヤーの皆さん、ありがとうございました。

哲学は、仲間と一緒に山登りをすることと似ている　　古　林　紀　彦

平原先生による「私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか」をテーマにした１年間でした。平原先生の講義では哲学史を時系列で見て、神話の世界を通じて真理を説いた時代、客観という正しい存在があるという前提の時代を経て、現象学において確信である本質を相互に確かめ合うこと（共通了解）で本質を普遍的に洞察することができる（本質観取）のだと知りました。この哲学の歴史から私は人間同士の対話を通じてたどり着こうとする姿勢、外に答えを置かず双方の合意を重視する考え方を学び、対話という内から導き出す行為に「どう生きるべきか」のヒントがあるように思いました。そして、自主学習の日に学習生だけで２度の「哲学的対話」を行えたことがとても良い経験になりました。

哲学的対話とは「仲間と一緒に山登りをする」イメージだと言います。哲学的対話による山登りでは言葉を頼りに、他のメンバーとの距離、山頂までの距離を対話の中で感じ取りながら進みます。もし仲間から離れつつあるなら、ルートから外れつつあるなら、言葉の捕捉や質問で距離を修正しなくてはなりません。このメンバーや山頂との距離を感じながら行う哲学的対話は、共通了解や本質観取と同じ性質を持っていると感じました。これからも登らなければならない山は多いですが、哲学的対話を通じて相互理解も育みつつ、合意形成を図り、共通了解をつくっていくことが渾沌の時代の中において心強い方法に思えました。

平原先生はじめ、講師のみなさま、学習センター齊藤さん、自主学習のコーディネートなども担当いただいた運営委員の方々、哲学コースの学習生のみなさま、大変刺激的な金曜の午前を過ごせました。ありがとうございました。

今を生きる我々に、何が必要なのか？　K. S.

生きづらい社会、先が見えない不安、そこにパンデミック。

こんな時代に、哲学に“救いを求めて”と言ったら大袈裟か？　だとしても、何かヒントがあればいいなあ。

「渾沌の時代をどう生きるべきか？」とは、そんな期待感にストレートに答えてくれそうなテーマだ。

今、必要なことは？

水野先生は、資本主義の終焉を指摘する。つまり「ポスト資本主義」への移行が急務なのだ。

大澤先生によれば、必要なのは「絶望」だ。何とかなるさ、ではなく、破局は確実だと想定してこそ、大胆な変革ができる。

池内先生は、科学は複雑系の問題に答えを出せない、と言う。だから一般市民も含めた「コンセンサス会議」が必要だと。

小川先生は、今まさに「哲学思考」が求められている、とする。その実践の場として、哲学カフェを推進している。

対話を重視するのは、メイン講師の平原先生も同じだ。安易な相対主義も独断も避けて、皆が納得できる「共通了解をつくること」を目指すべきと言う。

多彩な先生方の濃い講義内容を一言に要約しようなど、おこがましい。それでも、あえて言えば、「覚悟」と「対話」というキーワードを受け取った気がする。

哲学は甘くない。都合よく“救い”などないのだ。道のりは険しいが、考え続けていくしかない。そして対話を心がけよう。

自主学習を２回ほど哲学カフェ形式で実施したのだが、対話の面白さ・難しさが身に沁みて分かった。実りある体験だった。

今回、初めて市民大学を受講して、その充実した内容に驚いた。なぜ今まで知らなかったのだろう？

まさに渾沌としたコロナ禍の状況下、当コースを企画・実現し、素晴らしい学びの場を提供してくださった関係各位に心よりお礼を申し上げたい。

哲学コースを受講して　A. S.

１年間学びの機会をいただきありがとうございました。

コロナ禍ということで、対面での開催は常に不安でいっぱいでした。それでも何とか途中で断念する事なく続けられたのはひとえに講師の方の毎度わかりやすく言葉を選んでくださりながらもしっかりと深い授業のおかげでした。

１人でたくさんの本と向き合って学んできた哲学への理解がさらにグッと深まりました。

復習にもなり、新しい発見もあり、帰宅後に更に反芻したくなるような授業で、まだまだ続けていけたら…と、終わってしまうことは本当に残念です。

学んできたことを更に自分なりに膨らませ、熟考しながら、日々の生活にも落とし込めたら、と思っています。

１年間、どうもありがとうございました。

またの機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。

哲学対話を半径５m 範囲で出来たら

H. T.

コロナウイルスをきっかけに世界がガラッと変化し、これまでの常識が崩れ、新しい常識が当たり前のようにフィットしていく状況で「どうやってこの子を育てていこうか」「これからどう生きていこうか」と焦りを感じていた時に市民大学を知りました。哲学コースの「私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか」といったテーマがまさに自分の問題意識と重なり、ヒントが得られるのではと思い受講を決めました。

１年間の講義を通して、哲学のエッセンスに触れることでき、これからどう生きていこうかという問題意識に対しての答えが少し見えてきた気がします。「本質観取」「共通了解を探る」「破局から考える」「未来の他者に応える」「哲学対話」など多くのキーワードにヒントをもらいました。

自主学習の「哲学対話」には運営委員として企画から携わることができました。哲学対話（哲学カフェ）とは、海外では幼稚園、日本では一部の小学校等で教育の一環で行われており、参加者が円になって素朴な疑問をテーマにして皆で考え、批判することなく、語り合い、思考を深めていく活動です。この活動をそれぞれ自分の半径５m範囲で行うことができたら、きっとコミュニケーションも深まるんだろうと感じました。

平原先生をはじめとする講師の方々、職員の皆さま、受講生の皆さまありがとうございました。また、毎回愛情を持って保育してくださった「くれよんらんど」の先生方もありがとうございました。保育付きで学べる機会は本当にありがたいです。市民大学が子育て中、介護中、療養中など様々な環境に置かれた市民が「学びたい」と思った時に、学べる機会の中で一番身近な選択肢の１つでありますように願っています。

知性とは

武　田　香　織

この１年間でもっとも印象的だったのはオンラインで開催された小川先生の「渾沌とした時代を哲学する」です。参加者が思い思いの発言をしているようでいて、先生に誘導されていく感覚が、ジャズのセッションのように流れるような楽しい時間でした。正確な内容は覚えていないのですが、終盤には受講生は相反するふたつの考えに分かれていて、「第三の道（解答）を出せたら哲学者として活躍できる」と先生がおっしゃいました。それに答えられなかったのが、悔しかった！　普段からの頭の訓練ができていないのを思い知った瞬間です。先生は解答として「哲学し続けること」と提案されました。

その後、東浩紀という哲学者・思想家の本において、同じような結論に至っているのを読みました。

「東西の哲学者が同じことを言っている」と心が鷲掴みにされたような衝撃でした。

知性とは、てっとり早い結論を求めることではなく、思考を深める過程で、現時点での最善の答えのようなものを提案することなのかもしれません。

あまり講義に出席していないのに感想を述べるのもおこがましいのですが、哲学コースを受講してよかったです。

そして、コロナ禍において皆さんとリアルに同じ場所に集まり言葉を交わした時間は貴重でした。

ありがとうございました。

哲学していく

H. N.

限られた自分の時間を自分なりに充実した時間にしたいと思いつつ、哲学講座に参加させて頂きました。平原先生を始め、色々な分野の専門の諸先生方のお話を近くで聞くことができ、本当に贅沢な時間を過ごすことができました。新しい知識を得たり、アップデートしたり、修正されたりと、大変豊かな時間でした。子育て、家事、仕事と日々の生活に追われる中で、講座の時間は先生方のお話を通して、自分の生活を見直す時間、そして視野が広がり、世界に生きる、歴史に生きる１人という自覚を覚えました。

コロナ禍において、それまでの日常ではなく新しい日常が始まり、その中を過ごすことは当初、不安でしかありませんでした。また私たちの生きる社会が不確定な社会であり、色々な課題を抱えております。私自身も迷いを覚えております。もちろん未だ戸惑いや不安はありますが、そのような中でも講座での学びを繰り返すうちに、色々な角度からのヒントを与えられました。また、先生方のお話を始め、人生の諸先輩との話し合い、コメントは本当に良い勉強となりました。色々なお考えや価値観に触れることができ、その中で自分はどう生きるのか、模索するのが楽しくなりました。

学びの機会があるということは、子育て最中の私にとって本当に大切なことでした。学んだことを少しでも地域で生かせるようにしていきたいと思います。コロナ禍においても、このような機会を設けて下さいましたことを心から感謝したいと思います。また、色々な方のご尽力により、有意義な時を過ごせましたことも重ねて感謝したいと思います。ありがとうございました。

哲学コースを終えて

藤　橋　君　枝

令和３年度のテーマは『渾沌の時代をどう生きるべきか』で、果たして答えが出たか気になります。

先ず、平原先生の哲学の歴史から学び始め哲学の基本を考えました。神話と宗教の違いから近代哲学の歴史を学びました。哲学的思考を学べたと思います。哲学の目的は普遍的に物事の本質を論じること、哲学の営みは本質をめぐる問と同じ長さの歴史を持っていることだそうです。キーワードとして「本質の共通了解」になります。

自主学習の時間に「哲学対話」をやりお互いに人生で必要なコミュニケーションとして共感・共通了解の結論を得ました。これも不安時代に生きる哲学思考を勉強した成果と思います。

西谷先生・大澤先生・水野先生・三浦先生・石飛先生・正村先生の講義を通してコロナ禍での生き方を学びました。もっと時代に沿った講義を受けられたらとも思いました。オンライン講義も何回か有りましたが、やはり対面での講義が有効かと思いました。もっと対人関係の意味があると思います、居場所としての市民大学の使命と目的が有ると思います。

ピアノ・バイオリン演奏会も美とは何かを体感出来て良い企画と思います。

言葉だけではなく感性の領域にも踏み入れます。来期も企画されると良いと思います。平原先生の「哲学思考の原理と目的」で哲学の勉強が出来ました。これによって混沌時代をどう生きるべきかを学べました。この一年間哲学を学んで考えをまとめられました。自分たちはどんな世界に住んでいるかを知る事が出来ました。

最後に事務局の斎藤さんや運営委員の方々にお礼を申し上げます。

私たちは渾沌の時代をどう生きるべきか　K. B.

この問いかけが突然　私の目に飛び込んできました。と同時に教室で哲学の講義を受け　対話もしている自分を想像することができたのです。この今を生き抜くため　少し自分の考えをまとめておきたいなあ、と思っていたようです。それを哲学に求めました。全30回の半分までは薄暗いトンネルの中を手探りで歩いているようでした。なかなかピンホールも開いてはくれませんでした。しかし、メイン講師　哲学者　平原卓（ひらはらすぐる）先生の何回も繰り返してくださる丁寧な講義でトンネルにも変化が。見通しが良くなり心地よく深呼吸が出きるようになりうれしかったですね。

そして最終回にたどりつきました。感謝です。

哲学仲間の皆様方が、個性派揃いで一言二言のお声かけも励みになりました。そして平原先生の高らかに笑う声にも未来を感じました。

これからも、丁寧に諦めないで対話をし一歩一歩自分の人生をと、思いました。

孤老は「昭和」育ち、昭和97年（2022）も誠実に生き続けたい　C. F.

『今』2022年は『昭和97年』。市主催「市民大学」講座〈市民の自主性〉に許ずく綜合コース1年間（30回）受講の好遇に与かった。テーマは「渾沌としている時代をどう生きるか」。《昭和》は、分からないことばかり果てしない混沌と闇の世紀が続く。日々“私たちはどう向き合ったらよいか”コロナ禍受講者数を半減で行なった。20世紀の前半《昭和期》は、史上空前二つの大戦が世界を混乱に陥れ、死者は数千万人に上り、惨禍に金融恐慌も起り、国民のくらしは、奈落に墜ち、生き残るも貧困と苦難にうちひしがれた。―我が国は、中国・武漢政府に第1次山東出兵に始まる隣国朝鮮（大帝国）・満州利権への侵攻企て（西安、俊東を蹂躙）中国領土の「日中戦争」本格化。『対米英宣戦』勃発で日本全土は焦土と化した。ソ連侵攻で昭和45年の敗戦、18年間事変・事件の焦土侵略終え―「冷たい平和」は米英中露4カ国の掌中で歴史は蠢き　各国も戦禍修復「生産重視」 世界は、経済至上の企業化グロバリゼイション＝経済・政治・科学と覇権争うプロセスの自由貿易に移行―「パンドラの函の蓋」が開かれ、不幸な出来事が飛び出した散乱状態。

現代の昭和：個人化が横行し多様化・差別化の利己的な全世界に突如、現世未曾有な「変異株ウイルスとの戦争」が勃発した。人々の日常を無差別に破壊し終焉の見えない「命の恐怖」が居座った。爺婆は、満2年間を誠実に自粛の蟄居生活。憂欝を深更時乏しい趣味で探る工夫をした。幸い人生に意欲的な「友」と交誼に与かり僅かな短時間互い忌憚ない学びに充てようと努め合った。識者※の云う「人新世」は地球を破壊と憂う、守銭奴経済の効率主義・利己性の偏りを罵り、最近は「comon」地域ファーストを憚ることなく確かめ合い、激昂もできた。講座は古代→中世→近世→現代の西洋哲学者の羅列、目線の高い教鞭の受講には、知識乏しい男には？？。「郷に入（い）って、郷を（従う）」古来の格言は！？　『郷を（伺って）から、郷に入る』と思われる……“実感”。開けられた「箱」から飛び出した多様な不幸や疾病・災い、混濁や恐怖は私たちが「世」を粗雑に扱い過ぎたもの。

カント曰く「価値は自然界において永遠には存在せず、精神において守らねばならない」と。“それでは急いで蓋を閉めなくては！”『駄目だ､閉めてはいけない。まもなく片隅から三鷹コモン（common）の「希望」が飛び出す筈だから』

※村上和雄著「コロナの暗号」等や内田樹著「ローカリズム宣言」など参考にした

コロナ禍の中で

安　永　隆　則

1．本年の学習はコロナ禍の中でスタートした。クラスの規模も例年の半分の15名となった。色々不安があったが、無事カリキュラムを終えられてホッとしている。

2．本年度で特筆されるのは、メイン講師の平原先生の素晴らしい授業だと思う。これまでの蓄積に加え三鷹市民学校の講義にあたって知識をブラッシュアップされているようで生き生きとした授業は印象的であった。哲学史が新鮮に学べ、原典をよんでみたいという意欲がわいてきた。

3．もう一つは哲学対話のトライ。カリキュラムに組まれていた小川先生を中心とする哲学対話は経験豊富な先生の舵取りで楽しかった。これに加えて受講生だけでの哲学対話も中心となった受講生のＳ氏、Ｗ氏の努力で充実した営みとなった。両氏には感謝したい。

もっと哲学したくなるコース

渡　邊　伸　廣

今年の哲学コースは、①体系だった哲学の流れを分かり易く教えて頂けた。②「本質についての共通了解を作りだし、必要に応じてそれを刷新する事」の実践として、自主学習で「哲学的対話」を２回実施、小川仁志先生により１回実施できたこと。③私にとって大きな収穫だったことは、①②の延長で「哲学と道徳」との関わりへの思いに至ったことです。

②哲学的対話は、受講生からの提案と運営委員との思いが一致し、手探りな中で始め「自由と権利はどう違うのか？」をテーマに第一回を、「生きがいと使命の違いは？」を第二回に取り上げました。いかに平素自分は人の話を聞いていないか、理解せずに自分の主張ばかりを言っていないかというような反省ができました。ハイデガーの言う「良心の呼び声」に近い質問を投げかけられるか？　長い人生で染みついてしまっている想念を一度捨てられるか？　等々の気づきにつながりました。

③は①や②で理解し学んだ延長に、カントの言う「定言命法」や、フッサールの言う「構造的内在」や、ヘーゲルの言う「社会制度」を考えるに当たってより高みに立つには、どうしても倫理や道徳と哲学を絡めていかねばならないと思うに至りました。それはニーチェの言う「運命愛」につながるのでしょうか。その為にはマルクス・ガブリエルの哲学を続けて学ぼうという意欲が沸きました。ますます哲学したくなるコースでした。

最後になりますが、我々受講生や運営委員の要望をご理解され最大限のサポートをして頂いた先生や事務局の方に大いなる感謝を申し上げたいと存じます。

どうする！日本の格差社会

～迫られる政策転換と実践的な取り組み～

講師：駒　村　康　平
（慶応義塾大学経済学部教授）

学習成果発表

どうする！日本の格差社会 ～迫られる政策転換と実践的な取り組み～

講師　駒　村　康　平

「どうする！日本の格差社会～迫られる政策転換と実践的な取り組み～」受講者の皆様

約１年間、自主学習会も入れると30回の講義、大変お疲れ様でした。実りある学習であったと存じます。

新型コロナが蔓延して２年目から３年目に入るなかで、受講に際していろいろ気を遣うことも多かったと存じます。

講義でもお話したように、「昨日よりも今日、今日よりも明日は、より豊かで、便利な社会にしたい」という人類の向上心が人類を進歩させてきました。産業革命以前は、病気や飢饉が原因で、多くの子どもが５歳になることもできませんでした。しかし、近代の技術と経済の発展は、人類を豊かにし、人類の寿命を延ばしました。もちろん、これからも人類が進歩するという意欲を持つことが重要だと思います。

その一方で、「すでに豊かな人がより豊かになりたい」、「他人よりもより多くのものを貪りたい（消費したい）という」欲望を「経済成長」という「ポジティブ」な表現で、今後も野放図に追い求めてよいのかということに疑問も出てきています。

神経経済学の分析では、人間の欲望は脳内物質のドーパミンの刺激の結果に過ぎません。ドーパミンの刺激には、満足することもなく、「消費すればするほど、もっとほしい、もっとほしい」、「他人よりも多く」という欲望がより強まります。そして、デジタル社会のなかで、SNS、各種プラットフォーマー、EC（イーコマース）が、人々の行動・欲望を監視し、欲望をより効果的に刺激するようになっています。

しかし、SDGsを巡る議論でもわかる様に、「足ることを知らない」無限の欲望が地球というかけがえのない惑星を破滅に追い込んでいきます。

他人との比較があからさまになる格差もこうした欲望に拍車をかけます。トランプ前大統領が掲げた「アメリカン・ファースト」という言葉に代表されるように、「地球や社会なんかどうなってもいいので、自分と自分の家族などだけが、他人より豊かで幸せになればよいという見方」です。しかし、「自分と自分の家族だけが幸せになる社会」など存在しないのです。

コロナで人類の多くが健康面や経済面で心配ごとを抱えてきました。心配ごと、ストレスは交感神経を刺激して、人々をイライラさせます。そして、世界がコロナの不安が払拭できないうちにロシアによるウクライナ侵攻です。こうした背景には、「限りない欲望」、「自分だけが良ければいい」という考えと、コロナによるが「イライラ」が世界で蔓延しているのではないでしょうか。社会全体のこと、地球の全体のことを考えずに、自分たちだけの欲望の追求は、地球温暖化に繋がりました。そしてウクライナ戦争は第三次世界大戦に繋がる危険性も出てきました。地球がなければ人類は誰も生き残ることはできないのです。人類が産業革命以来、200年享受してきた繁栄の仕組みを今こそ見直すべきではないでしょうか。「他人と比較する、競争する」といった「交感神経」を刺激する社会経済の仕組みから、心を穏やかにし、自然や家族との時間を楽しむような「副交感神経」が働き、落ち着いた平和な社会を作って行きたいものです。そうした取り組みは、まず皆さんの地元から始めることができると思います。今後も様々な機会を使って学び続けることを期待しています。

＜コース趣旨＞

コロナは、社会の弱点をあぶりだし、日本のあらゆる層に貧困と格差が生じていることが浮き彫りになりました。それはコロナならぬ人々が“自己責任論ウイルス”に侵されてきたことも、大きな原因かもしれません。

どのような政策や取り組みによれば、格差・貧困にあえぐ老人・若者・女性・子供が生気を取り戻し、日本の社会が持続可能であり続けられるのか、ともに学び考えませんか。

プロフィール

中央大学経済学部経済学科卒業。
同年通商産業省入省、1991年同省退職。
1993年社会保障研究所（現：国立社会保障・人口問題研究所）研究員。
1995年慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。
1996年国立社会保障・人口問題研究所研究員。1997年駿河台大学経済学部助教授。
2000年東洋大学経済学部助教授、2005年教授。2007年慶應義塾大学経済学部教授
＜主な著書＞
『福祉の総合政策』（創成社, 2001年／新訂版, 2003年／新訂２版, 2004年／新訂３版, 2005年／新訂４版, 2008年／新訂５版,2011年）
『年金はどうなる――家族と雇用が変わる時代』（岩波書店, 2003年）
『大貧困社会』（角川・エス・エス・コミュニケーションズ［角川SSC新書］, 2009年）
『年金を選択する―参加インセンティブから考える』（慶應義塾大学出版会, 2009年）
『日本の年金』（岩波新書, 2014年）
『中間層消滅』（角川新書, 2015年）

自主学習の風景

討議成果の発表

グループ討議

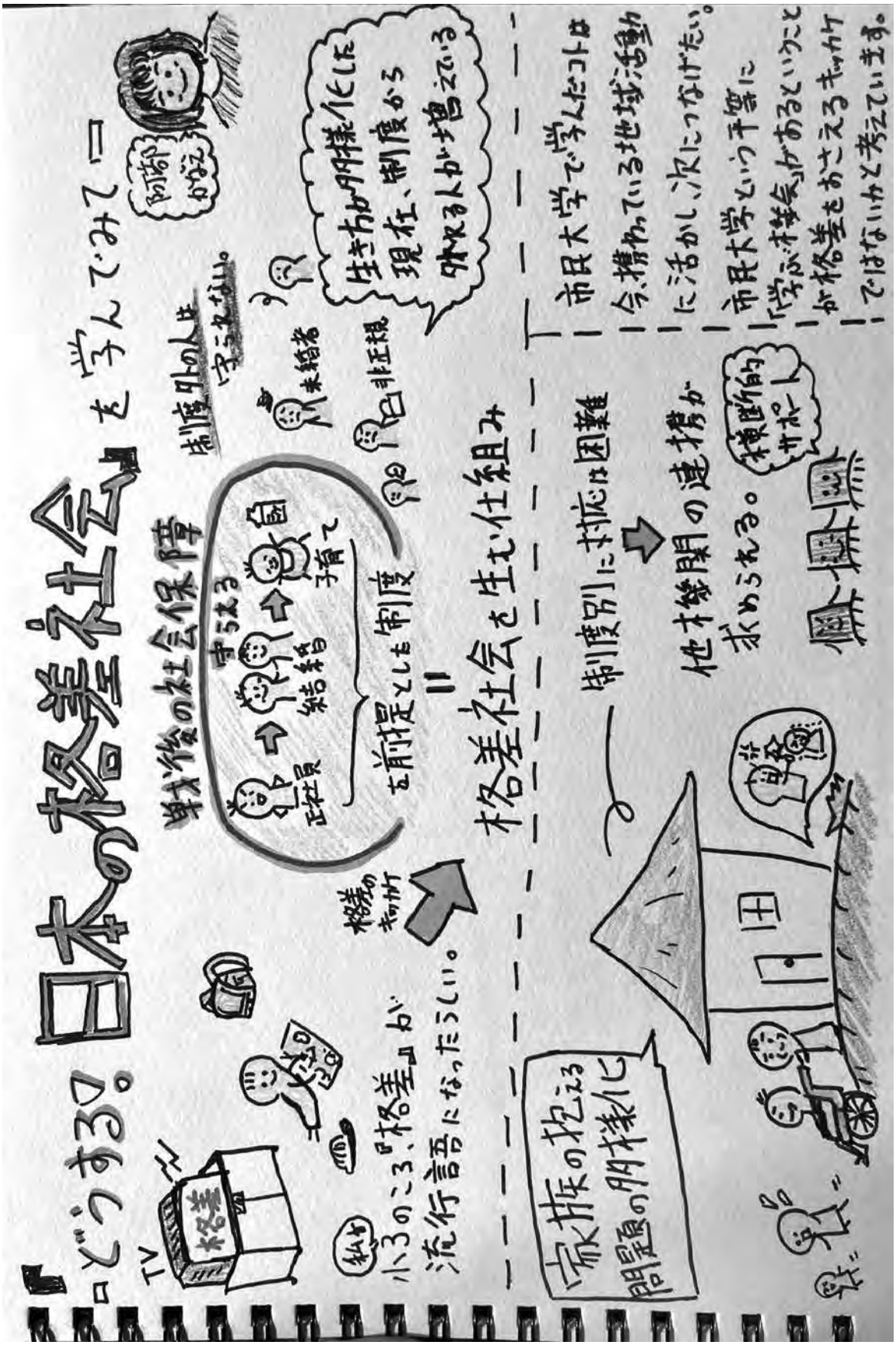
●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
1	５月15日	開講式・オリエンテーション	自主学習１
	学習生間による自己紹介後、運営委員の選出など。		
2	５月22日	日本の社会保障の崩壊と再生【オンライン】	東京大学大学院教育学研究科教授 本田由紀さん
	日本の社会保障制度を支えてきた戦後日本型モデルが破綻。仕事・教育・家族の各面で新たな社会モデルの構築が必要。		
3	５月29日	コロナ時代を生きるために	東京外国語大学名誉教授　西谷　修さん
	コロナ禍を生き抜く最大の術は徹底した「自衛」であること。		
4	６月５日	社会保障総論①	慶応義塾大学経済学部教授 駒村康平さん
	日本の社会保障制度を巡る所得格差・少子高齢化・膨大な財政赤字の三課題などについて。		
5	６月12日	社会保障と財政	東京経済大学学長　　岡本英男さん
	経済の安定化のための完全雇用の実現は財政の均衡ではなく、金融と財政が一体となり財政赤字の策を実行することが有効。		
6	６月19日	長期停滞の資本主義	獨協大学経済学部教授　本田浩邦さん
	新自由主義経済が生み出した格差の拡大と貧困の蔓延の問題に対して、民間の投資需要から家計や個人に焦点を当てる欧米の政策対応など。		
7	６月26日	社会保障総論/地域福祉論	駒村康平さん
	ポストコロナ時代の地域共生社会を支える、最後尾について脱落者を出さない「地域社会のしんがり」の活動など。		
8	７月３日	格差が招く社会問題【オンライン】	中央大学文学部教授　山田昌弘さん
	日本型リスク社会の変質―戦後の標準的家族モデルに該当するか、そうではない非正規雇用者・未婚者かで、社会保障制度の内・外が決まってしまう。		
9	７月10日	ここがおかしい日本の社会保障【オンライン】	山田昌弘さん
	未婚者、ひとり親、非正規労働者、独居老人など、どんな家族形態でも安心できる社会保障制度への転換を。		
10	９月11日	新しい福祉社会とベーシックインカム	本田浩邦さん
	現行の社会保障制度は格差是正にあらず格差の固定化になっている。新しい福祉社会のためのベーシックインカムのメリットとデメリットなど。		
11	９月18日	自主学習２	自主学習２
	学習生全員に行ったアンケート結果に基づいて討議。フェスティバル見送りによる自主学習日の変更と自主学習内容の説明。		
12	９月25日	地域福祉論/金融ジェロントロジー	駒村康平さん
	住民の複合的なニーズに対応し、地域共生社会の実現を実践している自治体の紹介。認知機能の変化に対応する社会―金融部門と介護福祉部門の連携。		
13	10月２日	金融ジェロントロジー	駒村康平さん
	認知機能低下社会における資産の適切な管理・運用の問題への対応など。		
14	10月９日	人生100年時代のライフキャリアをデザインする①	ライフシフト・ジャパン株式会社 代表取締役CEO　　大野誠一さん
	人生100年時代：一人ひとりが何度でもチャレンジし続けることができる「マルチ・ステージ型」社会について。		
15	10月15日	公開講座	国際基督教大学名誉教授 スティールM. ウィリアムさん
	演題「アメリカと日本の100年:1921年～ 2021年」		
15	10月16日	公開講座【オンライン】	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2 プロジェクトチームサブマネージャ　中澤暁さん
	演題「小惑星探査機“はやぶさ２”その成果と舞台裏」		

回	日　付	講　　義　　名	講　　師
	学　　習　　内　　容		
16	10月23日	教育格差について【オンライン】	本田由紀さん
	垂直的序列化・水平的画一化教育から水平的多様化が拡充される教育へ。少人数学級の編成とICT教育の必要性など。		
17	10月30日	自主学習４	自主学習４
	格差問題全般と教育格差の問題を議論する２グループに分かれて討議。		
18	11月13日	新しい働き方・協同労働について	西谷　修さん
	コロナ禍下に成立した「労働組合法」の解説及び病院清掃から始まった事業が子育て・ケア・第一次産業・困窮者支援の分野に広がった活動実態について。		
19	11月20日	自主学習５	自主学習５
	三鷹市健康福祉部の川口生活福祉課長さんによる三鷹市の生活困窮者を中心とした福祉行政の講話と質疑応答。		
20	11月27日	自主学習６	自主学習６
	学習生の阿部華奈絵さんによる「格差社会に関心をもったキッカケ」と題しての講話と質疑応答。		
21	12月11日	自主学習７	自主学習７
	受講の成果を学習生全員で取りまとめて模造紙に表現するために、10/30の自主学習時と同じ２グループに分かれて討議。		
22	１月15日	格差社会の是正を目指すために	早稲田大学人間科学学術院教授 橋本健二さん
	非正規労働者の激増と労働者階級の二極化→アンダークラスの出現。格差・貧困の解消には政治改革のための幅広い合意形成が必要など。		
23	１月22日	少子高齢化のなかの貧困と格差【オンライン】	東京大学大学院人文社会系研究科教授 白波瀬佐和子さん
	日本型福祉社会のゆらぎが見える中、コロナ禍で特に女性の不平等・格差が顕在化。少子高齢化の観点から、中長期的な将来を見据えた先行投資が必要など。		
24	１月29日	人生100年時代のライフキャリアをデザインする②	大野誠一さん
	人生100年時代ライフステージについて、実際にステージチェンジした実例の紹介。		
25	２月５日	スウェーデンに住んで分かった社会保障【オンライン】	明治大学国際日本学部教授 鈴木賢志さん
	北欧の社会モデル：高い経済力・高福祉サービス→教育・職業訓練・男女平等→才能を見つけるチャンス→誰もが高い経済力達成という循環による「自立を促す社会」		
26	２月12日	新自由主義がもたらした日本経済、また社会保障施策への影響	経済産業省商務情報政策局 中野剛志さん
	小さな政府、均衡財政、規制緩和、民営化、自由貿易等の新自由主義政策で日本経済は98年からデフレが継続。将来世代のためにもむしろ財政出動してデフレの脱却が緊要。		
27	２月19日	自主学習８	自主学習８
	学習成果の展示物作成のために、２グループに分かれて討議。		
28	２月26日	自主学習９	自主学習９
	学習成果の展示物作成のために、２グループに分かれて討議及び作成の準備。		
29	３月５日	自主学習10	自主学習10
	展示物の完成後、全員が集まって完成した展示物について発表及び討議。		
30	３月12日	若者がはつらつとし活躍する社会とするために【オンライン】	本田由紀さん
	若者がはつらつとし活躍できるように、働き方・家族・教育の新たな社会モデルの構築のためには、法・制度の整備のためのロビー活動やグループ・団体を通じたエンパワメントなど決して諦めない要請行動が何より必要である。		

「どうする！日本の格差社会」を学んでみて

阿　部　華奈絵



予想以上に素晴らしい内容でした

荻　原　浩　二

初めて市民大学総合コースを受講しました。この講義はオムニバス形式で、講師の方々が代わる代わる自分の専門知識を披露してくださるものです。この形式の講義は、「広く浅く」で専門性に欠けるという指摘もありますが、その中で興味を持った講義をベースに、自分でどんどん知識を深めていけばいいだけのことです。三鷹市には中心外にも図書館が複数ありますから、とても便利です。複数の講師の方々の講義は、集中力のない私には常に新鮮さがあり、最後まで一度も休むことなく続けることが出来ました。

また、自主学習は本当の大学のゼミのようでした。一つのテーマに対して他の受講生の意見が聞け、世の中にはいろいろな考えがある、正解は一つだけではないと、改めて思いました。それを、今後の自分の生活に役立たせたいと考えています。

この講義の中で興味が持てたのは、駒村先生の「社会のしんがり」、本田先生の「教育格差」、中野先生の「新自由主義がもたらした日本経済」です。授業で先生方が紹介してくださった本も、何冊か読みました。今まで自分が見たことのない世界でしたので、視野が広がったような気がします。

最初は何となく申し込みをしてしまい、まじめな気持ちで受講しなかったかもしれません。しかし、２回目の授業から常に一番前の席で講義を聞き、一生懸命に受講できたと思っています。それは、予想以上に素晴らしい講義だったからです。講義の内容を今の自分の生活にどう紐づけていくか、そして、常に学ぶことの重要性を教えていただきました。

学生時代には少しも無かった学習意欲が、今はすごく高まっています。近場の大学の聴講生制度を利用してみたいとも思っています。

講座を終えて

K. K.

「１億総中流」と言われた1970年代から30年。高度経済成長期、バブル期、そしてバブル崩壊を経て「格差社会」となった。あらゆるところに存在する格差が顕在化して来たのだ。

そしてそれからさらに20年余り。格差は縮まるどころか拡大し、コロナ禍によりさらに深刻化している。格差社会から階級社会へ。一体どこまで社会の分断は進んでいくのだろう。子供達の未来はどうなるのだろう。不安ばかりが先に立つ根っこにあるのは教育格差か。所得格差が教育格差を生み、さらにまた所得格差を生む格差の再生産。そしてこのループから逃れることができない現実。

黙って受容していくしかないないのだろうか。

給付型奨学金の拡大や低所得層の家庭の子供達への授業料免除、夜間大学の増設……何よりも子供達自身に「学ぶ権利があること」「選択の自由」がある事をしっかりと教える場が欲しい。

子供達は国の未来を担う。所得格差で教育の場を失うことは、優秀な人材を失うことにも繋がる。それは未来に対する大きな損失。せめて子供達が自分の意思で教育を受けられる。そんな国になって欲しいと願っている。

日本の格差の現状を学んで

倉　林　孝　明

地域で15年に渡り、主に小中学生相手のボランティア活動を行ってきました。その中で、子ども達を取り巻く状況が、近年ますます厳しくなっており、子供の健全な成長にとってこのままでよいのかと、漠然とした不安を抱いていました。

そんな折り、幸いにも「どうする！日本の格差社会」の学習に参加することが出来ました。そこで、近年の社会の変化、個々の人々の生活や環境の変化、そこから生まれる格差について、多方面のデータや他国との比較から系統的に学ぶ事が出来ました。

例えば、共稼ぎや塾通いで空っぽの「家族」、一点でも良い点を取るための「教育」、ブラックな「仕事」、非正規社員の増大により戦後の正社員を中心とした長期安定雇用や年功序列賃金のモデルが破綻しているにもかかわらず、セーフティネットを含む社会の仕組みは旧態のまま放置され、「自己責任」という言葉で何の支えもなく孤独や貧困にさらされている人たちの負の連鎖の状況や、国際比較で、何のために生きているかわからない、社会の出来事に無関心な若者達の現状を確認しました。

真剣に格差に向き合ってきた講師や学習生の話を聞きながら、子ども達の主な生活場所である家庭や学校が社会の中でどう位置付けられ、それが子ども達の成長にどう影響を与えてきたか、自分の考えを整理でき、もっと大人達が地域の子ども達の成長の手助けをしていく必要があると意を強くし、子供たちの成長に寄り添う活動に一層力を入れていこうと、モチベーションを高める事が出来ました。

これも、講師や学習生の皆様、ご尽力いただいた企画委員、運営委員、職員の皆様のお陰です。本当にありがとうございました。

可能性が発揮できる社会へ

黒　沢　園　子

企画委員会からの参加だ。3回続いた自主学習で参加者数を心配したが欠席も少なく、コロナ禍でも全日程開講された。11名の講師で学習は行われた。2007年度の格差社会をテーマにした講座学習生が挙げられた問題点と現在の類似点も多いが、現在の方が格差問題も深くなっている様に感じた。

橋本健二先生は新型コロナ禍で格差が拡大し、新しく労働者階級の二極化が生じアンダークラスの出現を表している。アンダークラスの異質性として極めて低所得で、貧困状態が一般化。生活満足度、幸福感などが最低。家族形成が困難等々。現在報道される若い層の犯罪はここに起因するのが多いのではないかと感じる。(私だけかも知れないが)

格差の拡大は社会にさまざまな弊害をもたらす。コロナ禍で打撃を受けた非正規雇用者と自営業者。しかし自己責任論が大手をふるい、格差縮小と所得再分配への政治的合意も形成されない。政治的な対立もあり野党も格差縮小、所得再分配を求める支持を集めていない。アンダークラスの人々は政治への関心が少なく選挙権は放棄する事が多いと聞く。

白波瀬佐和子先生は講義の中でコロナ禍でジェンダー格差が拡大したことの問題を挙げられた。鈴木賢志先生のスウェーデンの講義は現在の日本は同じようにできなくても学ぶべき事は多い。本田由紀先生は誰もが尊重され可能性を発揮することができ、安心して生きていける社会と言われる。

戦争が拡大しない事を願って今回は終わる。

新名様に感謝致します。

受講を終えて

R. G.

はじめに、依然として落ち着く気配のないコロナ禍において、講座開講に尽力くださいました関係者の方々に深くお礼申し上げます。

私が市民大学を受講しようと思ったきっかけは、末っ子が入園して自分の時間ができたことで何か新しいことをしてみようと考えていた時、以前から興味を持っていた格差についての講座が開かれるという受講生募集のチラシを見たことでした。今までなかなか勉強する機会のなかった経済学の講義や、自分のよく読む本の著者の先生が講師として招かれていたこともあり、是非受講してみたいと思い申し込みました。

本講座を通して、なぜ日本でここまで格差が拡大してしまったのか、きっかけは何だったのかということを、統計データや図表を用いて先生方がわかりやすく講義下さり、その解決策としてどういった政策が必要なのか、また私たち自身の考え方や行動をどう改善していけばいいのかのヒントも得ることができました。実践は難しく理想通りに物事が進むわけではないと思いますが、小さい子供を持つ身として、すべての子供たちに少しでも格差の少ない未来が訪れることを祈るばかりです。また、一度の失敗も許さず、すべてを自己責任と決めつけるのではなく、どんな人もいつでもチャレンジのできる社会の実現こそが必要不可欠なことなのだと思いました。

最後に、１年間、年齢、性別、立場の異なる受講生の方々と意見を交わし、様々なことを楽しく学べる時間を過ごせたことに感謝します。ありがとうございました。

学びを形に

後　藤　恒　子

長男、長女が順調に就職できたのになぜ次男は派遣社員になってしまったのだろう？

私の育て方に問題があったのだろうか？　そんな疑問や世間で感じさせられる「格差」がこの講座に関心を持ったきっかけでした。

講座では慶応義塾大学の駒村康平先生の「社会保障総論」や「地域福祉論」、東京大学大学院の本田由紀先生の「教育格差」や「若者がはつらつとし活躍する社会とするために」、中央大学山田昌弘先生の「格差が招く社会問題」、早稲田大学の橋本健二先生の「格差社会の是正を目指すには」等興味深くお聞きしました。

また、ライフシフト・ジャパン CEO 大野誠一さんの「人生 100 年時代のライフキャリアをデザインする」や明治大学の鈴木賢志先生の「スウェーデンに住んで分かった社会保障」、経済産業省中野剛志さんの「新自由主義がもたらした日本経済、社会保障施策への影響」等大変参考になりました。今まで私たちが見過ごしにしてきた「貧困と格差」という大きな社会問題はコロナによって浮き彫りにされました。今回の講座から学んだ「貧困や格差」の原因、政策、男女の意識の隔たり等は改めてしっかり考えてみなくてはいけないと思いました。

＊長年私たちは「自己責任」という言葉によって社会の問題を個人の問題にすり替えてきたのではないでしょうか。

＊男女格差にしても先進国の中で日本は恥ずかしいほどの位置にいます。男性も女性も長年培われてきた「男社会」を当たり前のこととして許容してきたのではないでしょうか。

＊「自分さえよければ…」「自分は大丈夫だから」という意識が阻んできたことはないでしょうか。

私自身も反省を踏まえ、学んだことを何らかの形で行動に移すよう志を同じくする人たちと繋がっていきたいと考えています。今回の講座に若い人たちの参加があり大変頼もしく感じました。最後に講座を開くためにご尽力いただきました新名さん及び事務局の方々に感謝申し上げます。

市民大学の講座を受けての感想

神　　孝　之

格差は不平等な社会で起因する所得、世代間、ジェンダー、教育、地域格差等様々あり年々格差の差が広がりを見せている。

今回の講義の中で格差に触れた講義は少なく、また講師の各専門分野から観た格差についての講義が少なかったのは残念であった。

それぞれの格差には様々な問題があり、簡単に解決できないほど複雑な社会問題である。最近日本の社会のいろいろな分野で世界各国と比べるデータやグラフを見てみると、我国が発展途上国の状態に陥ってしまったのが現状であり、考えさせられる大きな問題である。格差の中でも問題になるのは賃金の所得格差が根底にあると思います。社会保障の給付をみると高齢者の公的年金や医療給付に対して厚い保障がある。その反面特に若者向けの社会給付が少ないのが現状である。日本の若者は諸外国に比べ現在には満足感が少なく将来に希望が持てないとの見方があるのは、社会の格差と関係があるのではと思います。子供の貧困率は７人に１人が貧困である現状です。これからは将来ある若者への社会給付を厚くすることが急がれる。これからの福祉政策について『高負担の高福祉』を求めるのか、『中負担・中福祉』とするのか議論を深める必要があると思います。いずれにしても、日本は受けられる給付に対して負担が少ないのが現状です。このような状態は種々の格差が連鎖の状態に陥ってしまったように思えてならないのである。格差の究極の課題は、経済の発展を阻害しそれに伴い社会の好循環に良い影響を与えないことは確かである。

講座を振り返る

高　橋　崇　之

改めて講座全体を振り返って、格差問題の根本的原因は何か？と問われても一言では答えられない複雑な要因が、長い間重なり合って起こっていると思う。

要因の一つには、戦後の日本社会の成功モデルが限界を迎えているにも関わらず、小手先の対症療法で乗り切ろうとしたことが考えられる。その代表は、生涯正社員をモデルにした現行の年金制度であろう。また、国民の政治への無関心も要素として大きいように思う。政治家や官僚だけに責任を覆いかぶせているだけでは、社会の歪みはいつまでも変わらないように思う。

今の社会システム（特に社会保障制度）では、日本が早晩立ち行かなくなるという厳しい現実を認めて、我々がその痛みを分かち合うべきではないか。例えば、所得税の累進課税の強化や消費増税を受け止めなければ、格差社会がもたらす弊害を弱者のみが被るという図式が変わることはないと考える。

尚、親や家族が子供のセーフティーネットにならない現代において、社会全体の役割期待が大きくなるのは自明であり、特に未成年者に対する教育、食事、健康問題については、国や行政が大きな予算を確保し、ノウハウのある民間企業やNPO組織と連携して、より強固な支援をしていくなど、ベーシックサービスの充実は不可欠だと思う。

最後に、講座の中で「格差社会は言い換えると分断社会である」という本田由紀先生の言葉が大変印象に残っている。自分もいろいろな場面で他者を色分けし、分断社会を助長しているのではないかと反省した。他者を理解、尊重し、どうしたらお互いが心地よい社会になるかを考えて行動することが、受講後の個人成果の１つになると思う。

サムハルの新設（日本版）

H. N.

国民生活の発展は経済と福祉の両輪である。サムハルとは福祉国家スウェーデンの障がい者の授産施設・作業所の連合組織であり国営企業である。人件費の90％を国が負担している。2016年現在日本の障がい者は963万人であり、東京パラリンピックで見た人達の活躍は素晴らしいものであり、多様な働き方が期待できます。

働き手の多いところは経済発展します。ところが日本では団塊世代と団塊二世の２つの波があり80年代後半まで繁栄をもたらした。以後少子化が進み、マクロ政策では不可能なインフレ誘導とデフレ退治に固執した結果、国際経済競争の敗者となった。しかも2050年には就業者人口は4930万人となり現在の64％と減少する。打開策としては75才まで働く高令者と障がい者である。2004年スウェーデンのヨーランペーション首相が来日し、日本で決断すれば「サムハル」だけは設立が容易です。障がい者は有意義な仕事ができ彼らも（納税者として）貢献できると述べる。トヨタ自動車、パナソニック、朝日新聞等は現地にとびトヨタなどはサムハルの事業所見学を終え、日本政府の反応を待ったが、小さな政府を目指し、民営化、グローバル化に邁進する。障がい者については2010年４月に障害者自立支援法のサービス利用を決定し、就労継続支援（Ａ型Ｂ型）を設定し民間施設に丸投げをした。しかも障がい者健康は旧厚生省、就労は旧労働省が管轄し、2021年５月まで交流がなかった。６月４日に統一検討会が開催されたが進展はない。サムハルはデフレ対策にもなり、大きな政府にも方針変更できるチャンスである。最後に格差が広がった原因は規制緩和、民営化、そして税金の引下げの３点である。

格差・貧困対策の処方箋

八　杉　茂　樹

コロナ禍でより露わになった日本の格差･貧困問題について、私の関心は国の対策は何かということであった。駒村康平先生が力説されるポストコロナ時代の地域共生社会は、住民が主体となって参加・協働し支え合って暮らすことであり、共助が日本の至る所に広がっていくことには大いに共鳴するものである。

しかし、国が公助の責務を全うする格差・貧困の是正策と言えるものではない。思うに、国の政策不在こそが格差・貧困が拡大・固定化している原因なのではないだろうか。国のスタンスはかつても今も自助（世帯主や家族）であり、そんな国の政策姿勢を変えさせるには、「自己責任論」即ち日本社会にはびこる妄念（努力をしさえすれば誰でも豊かになれる）及び日本人の悲しくも無慈悲な意識（貧困になったのは努力しなかったからだ）を振り払うことである。そのうえで、貧しい人もお金のある人も「みんなが享受できる利益」の発想で、誰もが必要とする幼稚園・保育園、大学、医療、介護、障害者福祉などの基礎的なサービスをすべて無償化する「ベーシックサービス」の政策を実施することである。財源は、中野剛志先生のお説の通り財政出動のアクセルを踏めばよい。

また、今「分配」がかまびすしい。国が主導できる分配政策は、最低賃金を日本の基準である「企業の支払い能力」から、国際的な基準である「生計費即ち働いて生活できる金額」に改め強力に引き上げることである。その結果、仕事を失った非正規労働者や企業内教育を受けられない若者については、デジタルやグリーンなどの成長分野を支える人材へと教育訓練やキャリア形成の支援を実施し、そうしたリカレント教育に協力する大学なども同時に支援を行っていく。そうすれば、日本の労働生産性の向上、産業構造の転換にもつながり、若者などが再チャレンジできる社会の実現も可能になるものと考える。

若者が展望をもてる社会に !!　M. Y.

日本の社会保障・年金制度は、高度成長期での男性は正規社員として仕事に就き中級家庭並の生活で家族を養い、退職後は年金で過せる設定でつくられたもので、現在の様に若者の失業者や非正規雇用者が増え続ける状態には全く適したものでないことを学びました。

若者は将来に展望が持てず経済的にも結婚・子育てが困難であり、その為子どもの出生率も低下していることや貧困の連鎖で求める教育が受けられないこと、大学に入っても経済苦で充分学ぶことができない学生が多いことを知りました。子どもや若者の貧困はこのコロナ禍で浮き彫りになったのです。ではどうすれば良いのか？幸福感の高い北欧に近づく努力を少しずつでもすべきです。それにはまず国家的プロジェクトで将来に必要な事業を計画しこれに就労口を広げ失業者を無くしていくこと、科学医学全ての分野の研究や技術開発進歩に、又芸術やスポーツ育成に大きく財力を投資することが必要です。若者が生活を安定させれば将来をみすえて今より社会情勢や政治に関心を強め国の発展の力となるでしょう。

若者にやさしい社会が今求められています。

また高齢者は、昔より老いが遅れ人生百年を考えて持てる力やこれまでの経験を生かした社会参加をすることで、心身共に健康でいることができ、無駄な医療費をおさえ、認知症の軽減にも効果があると考えます。

自分にできること　A. Y.

今回の授業を受ける前までは、正直心のどこかで貧困は当事者の頑張りが足りないから、努力をしていないから、という考えが自身の中にあったように思います。

頑張らなければ、いい学校に入れない。努力しなければいい就職ができない。その考えに疑問を抱くこともなく、生きてきました。

出産子育てを経験し、子どもたちを取り巻く環境の違いを肌で感じるようになり、これからの社会はどうなるのか、この不安が受講のきっかけとなりました。

一年間の講義を通して、また受講生の方の考えに触れることで、貧困の当事者自身ができることには限界があること、社会が支えていかなければいけないこと、そして、身近にいる地域の人同士でできることがあることがわかってきました。

特に子どもを取り巻く貧困では、家族以外の地域との繋がりがあるか無いかで、大きく変わってくることを知りました。

確かに自身の子どもが小さい時に話しかけてくれた、たくさんの知らない人たち。困っている時に手を差し伸べてくれた、初めましての人たち。地域の人、社会の人が自身の子育てを見守ってくれました。

私には、社会保障制度を変えることはできませんが、目の前で困っている人に声をかけることはできます。地域の人や子どもたちに挨拶することができます。社会の貧困には直結しないことかもしれませんが、今自分に出来ることをしていきたいと思っています。

最後に本田由紀先生がおっしゃっていた、目指すところは、誰もがそれぞれに尊重され、可能性を発揮できることができ、安心して生きていける社会。

この社会にしていくのは、私たち自身なのだということを忘れずにいたいです。

混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか

講師：小　原　雅　博
（東京大学名誉教授）

三鷹市民大学　総評

講師　小　原　雅　博

令和３年度の総合コース（土曜日）「混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか」のメイン講師を担当させて頂きました。以下、私の評価と感想です。

この１年、世界は引き続きコロナ・パンデミックで揺れました。日本社会の風景も一変しました。それは、資産・所得格差から民主主後の後退まで、国家内部の問題を深刻化させています。感染症や気候変動といった地球規模の問題には国際協調や国際協力が欠かせませんが、現実はそうなっていません。保護主義や自国第一の流れが続いており、大国間の対立が激化し、地政学リスクが世界の平和と安定を脅かしています。この混迷の時代に、我々は何にどう取り組むべきなのか？

そんな問題意識を頂き、節目節目で７回の講義を致しました。

５月22日　コロナ禍の本質　安全（秩序）か自由か？　健康か経済か？

６月12日　米中関係　「新冷戦」なのか？

９月25日　パワー・シフト　大国はなぜ興亡するのか？

11月27日　民主主義対権威主義　勝者はどちらか？

１月22日　戦争と平和　なぜ戦争は起きるのか？

２月26日　外交と内政　外交とは何か？　日本外交はどうあるべきか？

３月12日　ウクライナ戦争　リアリズムとリベラリズム　私たちの未来は？

最後の講義は、出席者の皆さんと相談し、急遽テーマを差し替えて、２月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻を取り上げました。この大事件は様々な論点を含んでおり、コースを締めくくるのにふさわしい問題で、活発な質疑応答が行われました。

私の講義以外に、ゲストの講師を招いて、関連する具体的なイシューについて話を聞いたそうですが、私の講義タイトルにはすべて疑問符（？）が付いているように、私は皆さんに疑問を持って頂き、一緒に考えていきたいと願っておりました。

幸い、１年を通じ、そんな双方向の知的交流の時間が持てたのではないかと総括しています。政治は一握りの政治家の独占物ではありません。民主主義は、国民一人ひとりの参加を前提としています。参加は選挙に限られません。市民がオーナーシップをもって議論し意見を集約する場としてのプラットフォームが世界各地で立ち上がっています。地方自治体、企業、メディア、NGOなどあらゆるステークホルダーを巻き込みながら、先ずは身近な問題の解決に取り組んでいく。それが民主主義を活性化することにつながるのではないでしょうか。

参加された三鷹市民の方々の問題意識は高く、専門家の知見を参考にしながら、あるべき方向性を見出そうと努力されていました。これこそ、市民大学の意義ではないかと感じ入った次第です。今後のご発展を心より祈っています。

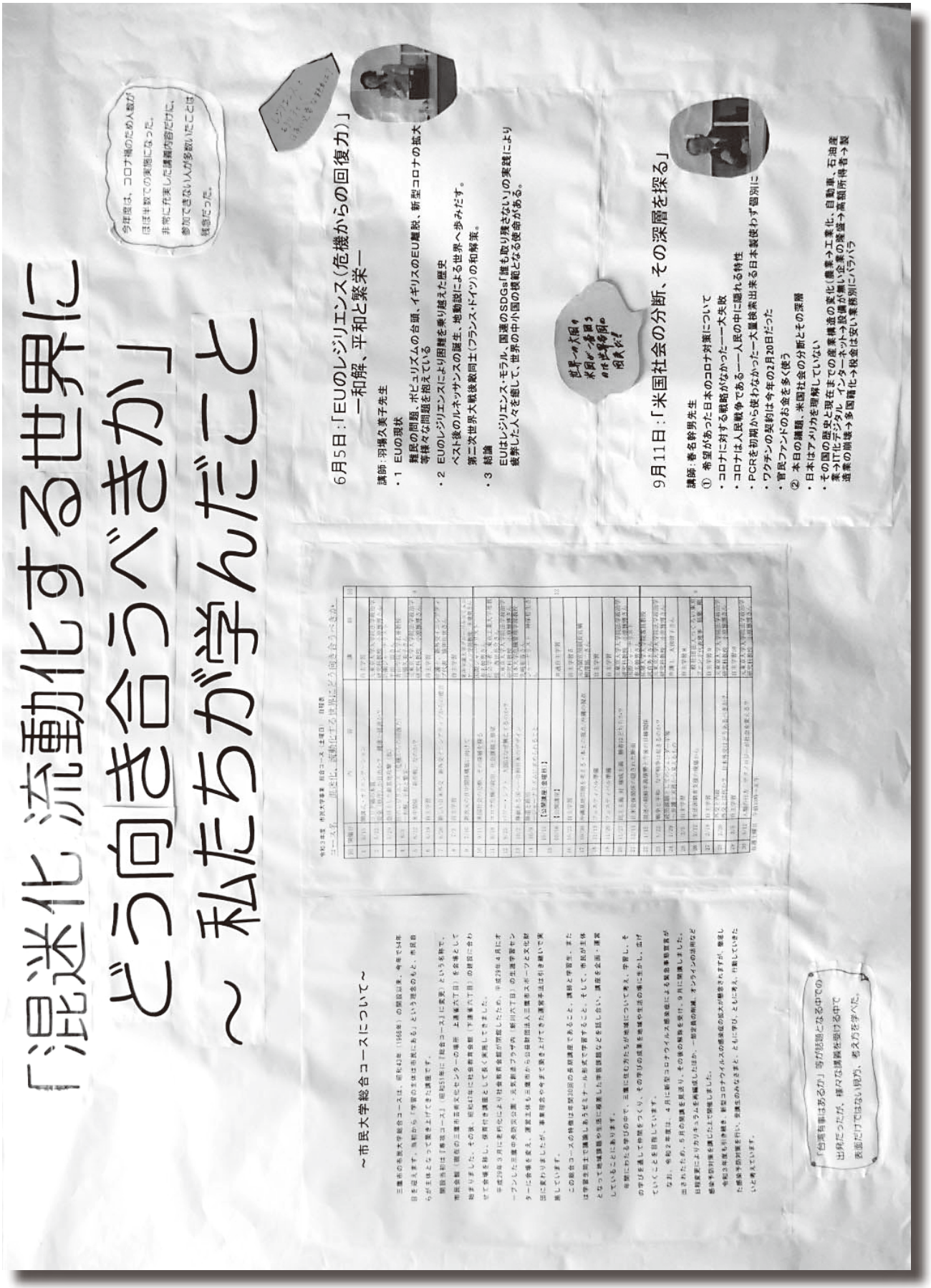
プロフィール

1955年生まれ　徳島県出身
外務省に35年勤務した（最後のポストは在上海総領事）後、2015年より東京大学大学院（法学政治学研究科）の教授（専門は「現代日本外交」）を2021年３月まで務めた。東京大学卒、博士（国際関係学）。
現在、立命館アジア太平洋大学客員教授、名城大学特任教授、島根県立大学客員教授、藤田医科大学客員教授、四国大学客員教授、復旦大学（中国上海）客員教授を務める。
＜著書＞
『東アジア共同体』（日本経済新聞社 2005年）
『国益と外交』（日本経済新聞社 2007年）
『外交官の父が伝える素顔のアメリカ人の生活と英語』（ディスカバー 21 2008年）
『日本走向何方』（中国・中信出版社 2009年）
『境界国家論』（時事通信社 2012年）
『チャイナ・ジレンマ』（ディスカバー 21 2012年）
『日本の国益』（講談社 2018年）
『東大白熱ゼミ』（ディスカバー 21 2019年）
『日本的選択』（中国・上海人民出版社 2019年）
『コロナの衝撃-感染爆発で世界はどうなる』（ディスカバー 21 2020年）
『大学４年間の国際政治が10時間でざっと学べる』（Kadokawa 2021年）　他多数

講座風景　ゲスト講師（計11名）も、登壇

自主学習　学習生も講師役をつとめた

学習生が１年間の学習内容をまとめた制作物を、元気創造プラザ１階自販機コーナー前の廊下に展示しました。



5月22日：「コロナ禍の本質　安全（秩序）か自由か？健康か経済か？」

講師：小原雅博先生

- 書記文書より：
- コロナ禍の本質・安全（秩序）か自由か？健康か経済か？「厄介な問題」を考える！
- 米国の統社会（個人の自由か社会の治安か）は？
- この1年間全体を通じて考えるテーマ、今回は入口としての問題提起
- 民主主義か専制主義か、アメリカと中国、トランプは米中戦争第一段階ととらえている
- 政治体制が大きく問われている。その基本にあるのは、パワー、利益、価値（正義）の3つの要素である
- 主権国家、国家の安全、警察権、リアリズムの世界

1つ1つの話はわかりやすく場の味深いが全体として話が散漫な感じを受けた。

メイン講師　小原雅博先生

6月12日：米中関係――「新冷戦」なのか？

講師：小原雅博先生

- 1、米中関係　アメリカナンバーワンを継続していけるか
- 2、人類全体の脅威　コロナ、気候変動他　地球の変化
- 3、米中関係　協力しあう部分も必要
- 4、中国　政府指導のイノベーション、
  アメリカ　ソフトパワー政府がやるとソフトにならず政府は見え隠れする
- 5、安全か経済を選ぶのか重点主義、経済成長に変わる
- 6、国家資本主義　権威主義・・・・・共産主義
  民主主義・・・・・アメリカ
- 7、主権の尊重（世界の秩序、国際秩序）主権に小国、大国は関係ない
- 8、脅威は何か、国家安全保障戦略で対応

人類冷戦には科学技術の発展の裏に民主主義等社会制度の進化が不可欠

9月25日：「大国はなぜ興亡するのか？」

講師：小原雅博先生

- 国際政治とパワー
  権力政治が国際政治最大の特徴
- 大国の興亡
  長期的経済発展の成否は自由民主政治と資本主義の不可分の結合にかかる。
  経済的不均衡こそが大国衰退の原因。
- 米中戦争は不可避か？パワーの増大の恐れ
- 経済と制度のバランス
- 二つの「歴史の終わり」は来なかった
- 歴史を生き抜くナショナリズム
- 国家の形態を成す3つの体系は①パワー、②利益、③価値（自由・人権・法の支配）である（最後は庭山書記所感より）

スペイン、イギリス、アメリカと想いを大国の歴史次は？

11月27日：「民主主義　対　権威主義」勝者はどちらか

講師：小原雅博先生

- 価値の競争に入った米中関係
  ―米中外交協議での楊潔篪政治委員の発言
- バイデン政権の「国家安全保障戦略（暫定）」
- 中国共産党の「歴史決議」
  ―毛沢東（建国の宣言）、鄧小平理論、習近平（新時代）
- 中国権威主義の行方は？
- 希望的観測か批判的思考か？
- 自由な社会でこそイノベーションは進む？
- リベラル民主主義の苦境、2つの国際秩序

米国等民主主義の欠陥について中国の指摘に学ぶ姿勢も必要

1月22日：「戦争と平和―なぜ戦争は起きるのか？」

講師：小原雅博先生

- 平和は単なる休戦期間--ピアス。そうであるなら、平和持続のため、如何に不安定化の危機を軽減・解消するか。
- 3つの危機
  グローバル---パンデミック+気候変動
  地政学---大国の対立（トゥキディデスの罠+新冷戦）～パワーと価値
  国内---格差・人口減少・高齢化・ナショナリズム
- 気候変動への対策としては、技術革新が鍵。経済成長との並立は不可欠。
- 民主主義vs権威主義　民主主義には、数の論理の暴力など欠陥がある。重箱の隅を突くのでなく、中国民主白書の指摘に学ぶ姿勢が必要。
- 格差/人口減少対策は中国共産党にとって生命線。共同富裕構想の帰趨は興味深い。
- 様々な危機で、二者択一（健康と経済、成長と分配、戦争と平和など）を迫られる中、極端でない柔軟・賢明な選択が求められる。
- SNSは人間のダークな側面を煽る。広い視野と流されず働きかける姿勢を保ちたい。

今、まさに始まる危機のにおい　欧米－中露　日本はどうする

戦争を起こすのも、平和を築くのも人間次第。世界平和の一歩は社会の変革から

2月26日：「外交と内政　外交とは何か？日本外交とはどうあるべきか？」

講師：小原雅博先生

- 前日、ロシアによるウクライナ侵攻があり、ウクライナの人々が置かれた立場を一人一人がどう考え、自分がどんな行動をとるのかが大事という話がされた。
- 外交と内政との関係
- 民主主義の後退
- 厳しさを増す安全保障環境
- 米中関係と日本の国益
- 「新冷戦」と日本の選択
- 日本の役割―米中の狭間で何ができるか？
- 最大の脅威は国内から！
- 人権とビジネス　日本企業トップの発言
- 櫻田謙悟経済同友会代表幹事の記者会見発言
- 利益と理念（価値）

3月12日：「ウクライナ戦争」

講師：小原雅博先生

戦争の推移（時系列）

2月4日～20日　北京オリンピック　中ロ首脳会談（共同声明発表）
24日　ロシア　全面侵攻
25日　中ロ首脳会談（オンライン）
26日　国連安保理：ロシアの拒否権行使で非難決議案否決　中国は棄権
米国が制裁（第1弾―プーチンら個人への制裁）
27日　SWIFTからのロシア排除を発表　　米：追加軍事支援
28日　プーチン指示：核抑止力部隊を高度な警戒体制に置く　停戦交渉開始
3月2日　市街地への攻撃激化
3日　国連総会：非難決議採択（141カ国賛成　反対5　棄権35　無投票11）
4日　ロシア軍が原発を攻撃　　5日 NATOは「飛行禁止区域」設定拒否
6日　プーチン：「東部親ロ派保護のため全面侵攻必要だった。」
7日　ロシアで反戦デモ（3,500人超拘束）　ロシア駐在員に帰国指示
8日　中・仏独首脳会談（中国は制裁反対）　9日 米：ロシア産原油輸入禁止
11日　仏独・ロ首脳会談（「外交解決困難」）　EU：ウクライナの加盟見送り

10月9日：「報道と自由」
ジャーナリズムに求められること

講師：神保哲生先生

ジャーナリズムとはメディア～媒体物、仲介者であること、現在の情報の全てはメディア経由であり、そこに正確性、中立性、信頼性がなければいけない。

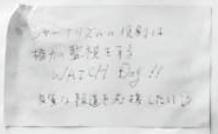
この機能を正常に働かせ、報道と自由を守るのがジャーナリズムである。

1、民主主義を正しく機能させる為の情報提供

2、権力は必ず腐敗するので、権力の監視をする

3、社会的課題、民意の集約と取り上げて提供

現代の新聞、テレビ、通信による多量な情報について、ジャーナリズムの機能向上、強化が重要である事の講演



1月29日：「政治課題としてのジェンダー平等
～弁護士実務からみえるもの～」

講師：太田啓子先生

1、弁護士の仕事上、離婚問題に関わることが多かった。

2、その中で、日本の男性のDV・モラハラ夫の特徴を見る。

3、この特徴は、生まれ持った性別によるものでなく、社会や歴史によってつくり上げられたジェンダーによると考えられる。

4、今までの日本では、夫に養ってもらえる女性の雇用の質は低く、男性に依存しないと生活できない状況で、男女の経済格差が大きかった。

5、これからは、性差別・性暴力について、子どものときからどう教えていくか、考え、求めている。

2月12日：「生活困窮者支援の現場から」

講師：稲葉　剛先生

・1994年から路上生活者支援活動を始めて今年で29年目に入る
活動の流れと実態の説明。

・ハウジングプアの全体像
日本では屋根がない状態（路上、公園、河川敷等）で寝泊まりしている人のみホームレスとしてカウントしている。

・住宅喪失は何をもたらすか？

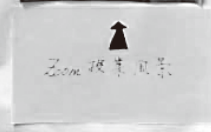
・社会的排除とは？

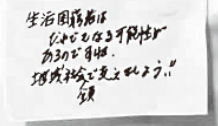
・ハウジングファーストとは？住まいは基本的人権である。

・住宅支援の他、食料配布、医療・福祉相談など支援団体経由で「つながる電話」を渡す

・生活保護申請支援システム

・公的なセーフティネットの課題





9月18日：「コロナ危機の政治、社会課題と展望」

講師：西田亮介先生

・コロナ禍への対応は、昨年3月頃まで、WHO的な観点ではうまくいっていた。
その後の対応で、2つの問題が露呈。

1　コロナ禍に対して長期的な観点で対応を考えてなかった。

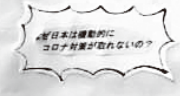
2　国政や自治体の政治家たちが、利己的に振る舞い、合理的行動をとれなかった。

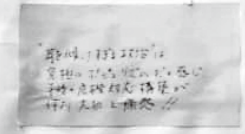
『耳を傾けすぎる政府（政治）』の問題

・ウィズコロナvsゼロコロナの議論は不毛、要はコントロールできるかどうか。

・現行体制は縦割り化しており、また、メディアや現業、労働者等の巻き込みが不十分
⇒　これらを含めた時限付き社会的協力体制を構築すべき。

・現実的な対策としては、広範囲対象・短期間・低頻度・高負担対策（ロックダウン等）を、自粛/要請手法（法制化等は平時にやるべき）で取るのが妥当か。





10月2日：「尊厳ある国へ～令和日本のデザイン」

講師：先崎彰容先生

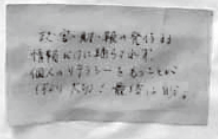
1、「戦後日本」のアイデンティティー
①自由と民主主義　②新自由主義　③日米同盟　④個人主義

2、現代日本診察ー「分断」と「分散」
・分断とは何か｜冷戦時代～資本主義vs共産主義。
リーマンショック後～非正規若者vs恵まれた団塊世代。
新型コロナ禍期～飲食店・医療関係者vsそうでない人達。
「社会的不平等感」が拡がり、ここバラバラに暮屈する社会。

・経済における「分断」ー大谷翔平と非正規雇用

※菅政権とは何か：「脆弱性」を増す日本社会像

3、国家の尊厳ー自由と民主主義に代わる令和日本のデザイン
不確実性に対する二つのイメージに対処する、きわめて困難な時代
国家vs個人から、「中間集団」的な弾力性へ
令和日本のデザインとは、取捨選択の自分の「判断基準」を持つということ



10月30日：「沖縄の基地問題を考える・本土の視点/沖縄の視点」

講師：柳澤協二先生

1. 沖縄の基地問題
   - 辺野古の軟弱地盤
   - 普天間の運用は5年停止の約束から沖縄全土の0.6%、米軍専用施設の70%増大になった
   - 米軍運用に無批判な受け入れは政策意思の欠如で沖縄のみでなく全国の問題
2. 抑止力、対話抜きの抑止は不安定
   - 日本は安保法で対米一体化
   - アメリカと一体化は安全か危険か
3. ミドルパワーの外交（緊張緩和の外交）沖縄を軍事のハブから交流のハブへ

5月29日：「敵基地攻撃と日米の一体化」

講師：半田滋先生

- 「現在の安全保障状況についてお話しします」
- 敵基地攻撃が現実的になってきている
- バイアメリカによる、日本の軍備が大幅に拡大
- 現場（自衛隊）抜きでの、政治主導の整備計画（特に安倍政権時）
- 憲法下での自衛隊の主任務、「専守防衛」は保有する兵器により有名無実
- 台湾有事の現実味、対中国としてのインド太平洋軍備戦略
- 日本が示すべき態度、果たすべき役割

12月11日：「日米安保関係の隠された断面 ～アメリカは本当に日本を守るのか」

講師：春名幹男先生

戦後から今日まで、日本政府が行ってきた対米交渉を節目ごとに振り返る。特に台湾、沖縄に注目し、その背景を含めて整理する。

- 条約文・共同声明を英語文書と外務省発表の日本語訳とで比較してみると、整合性の取れない箇所がある、外務省での作為的な翻訳の可能性あり
- 1960年の日米地位協定。1972年の沖縄の施政権返還を経て、1995年の米兵による少女レイプ事件をきっかけに移設案が浮上→ 1996年に普天間飛行場の返還で合意 →辺野古への移設には沖縄県側が反対するも土砂投入を続行
- 台湾との関係
  1972年のニクソン米大統領の訪中後、日本は中国との国交正常化と台湾との断交を実施 → 1979年アメリカで台湾関係法成立 → 尖閣諸島の領有問題（1970年代から中国、台湾、日本間で発生） → アメリカは「当事国同士の問題」という立ち位置を守り、不干渉の立場

6月26日：「新しい日米外交：新外交イニシアティブからの提言」

講師：猿田佐世先生

- アメリカは1国で中国に対して何か出来るという事は無い。同盟の力を借りないと何も出来ない。日米同盟はアメリカにとって中国と対峙する時に重要。
- ASEAN諸国はアメリカー辺倒でなく、アメリカと距離をとり、米中に対するバランスを取っている。
- 日本はアメリカと中国のどちらも選べない。経済界は9割を中国からの輸入に頼っている。
- 日本の立ち位置としては、世界を二分するような対中包囲網を米国につくらせない様に働きかける事が大事である
- 日本が軍事力を拡大する事で安全になると考えるのは安直である、中国の軍事力は圧倒的に強い
- 日本は世界的にミドルパワーの国である事を自覚し、他の東南アジアの国々と連携していく事が大事
- 欧州でも、米中に対しては中立的である

1月15日：「混迷の朝鮮半島情勢と今後の日韓関係」

講師：武貞秀士先生

現在の北朝鮮でおきている事、韓国で起きている事、そして国際環境（プーチン政権、バイデン政権、習政権の取り組み）について話され以下の朝鮮半島問題を取り上げられた

①今も続く分断国家、韓国と北朝鮮はなぜ統一できないか

②北朝鮮は軍拡路線一直線の道を突き進んでいる

③日本と韓国は依然として戦後最悪の関係である。それらの諸問題に対して日本の取るべき課題を提言。

1）対外政策として日本は米国と中国を単純に「米中対立」と見てはいけない。

2）防衛政策として日本は日本型ハイブリッド戦略を取る

3）日韓関係以上に北（ロシア、中国）政策が重要である

4）敵基地攻撃能力保有で同じカテゴリーに入り対話を進めるべきである

5）防衛政策では日米同盟の更なる深化と強化をする

7月10日：「新次元の日中関係構築に向けて」

講師：朱建栄先生

- 世界の主要国に登場した中国の経済力と科学技術力について、その潜在力と可能性を十分に評価すべき事
- 米中対立での技術覇権争いと自主、民主、人権、法の支配についての問題点
- 香港、新疆、チベットそして台湾の問題。以上の中国を巡って米国が、世界が対決姿勢に向かう中（戦争まで突入？）日本の対中スタンスへ四提言あり

①中国は簡単に崩壊しない、冷静に米中の情勢判断をして日本の立場を堅持する

②米中対立の中、「火中の栗」を拾わない

③新技術革新の本質を追求する

④戦争にならない様、コミュニケーション（話合い）のアドバイザーとなる

●カリキュラム

回	日付	講義名	講師
	学習内容		
1	５月15日	開講式・オリエンテーション	自主学習１
	当コースの参加理由や期待することを、各学習生に聞いた。		
2	５月22日	コロナ禍の本質　安全(秩序)か自由か？　健康か経済か？ ◆メイン講師の初回講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	この１年間全体を通じて考えるテーマで、今回は入口としての問題提起だった。「民主主義か、専制主義か」政治体制が大きく問われている。その基本にあるのは、パワー、利益、価値(正義)の３つの要素である。		
3	５月29日	敵基地攻撃と日米の一体化	防衛ジャーナリスト　半田　滋さん
	「現在の安全保障状況についてお話しします」 ①『専守防衛』は自衛隊が保有している兵器により有名無実となった、②『敵基地攻撃』は戦争である、③ 台湾有事の現実味、④ インド太平洋軍備戦略は中国への対抗策		
4	６月５日	EUのレジリエンス(危機からの回復力) ―和解、平和と繁栄―	青山学院大学名誉教授　羽場久美子さん
	ＥＵはレジリエンス・モラル、国連のSDGs「誰も取り残さない」の実践により疲弊した人々を癒して、世界の中小国の模範となる使命がある。ＥＵの顕在化できていない力に期待したい。		
5	６月12日	米中関係　「新冷戦」なのか？　◆メイン講師の２回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	権威主義…共産主義、民主主義…アメリカ　主権の尊重(世界の秩序、国際秩序)→ 主権に小国、大国は関係ない		
6	６月19日	自主学習	自主学習日
	運営委員から、当コースを設定した目的、背景を聞いた。		
7	６月26日	新しい日米外交：新外交イニシアティブからの提言	弁護士、新外交イニシアティブ代表 猿田佐世さん
	アメリカ１国で中国に対して何か出来るという事は無い。日米同盟はアメリカにとって中国と対峙する時に重要。日本の立ち位置に求められるのは、世界を二分するような対中包囲網を、米国に作らせないこと。		
8	７月３日	自主学習	自主学習日
	これまでの講義の振り返り及び意見交換		
9	７月10日	新次元の日中関係構築に向けて	東洋学園大学グローバルコミュニケーション学部教授　　朱建榮さん
	中国の「経済力・科学技術力」について、その潜在力と可能性を十分に評価すべき。香港やウィグル問題などで、アメリカを始めとする世界が中国に対決姿勢をとる中で、日本には話し合いのコミュニケーション役を期待。		
10	９月11日	米国社会の分断、その深層を探る	国際ジャーナリスト　春名幹男さん
	日本はアメリカを理解していないという立ち位置から、歴史的な産業構造の変化を辿った。(農業→工業化、自動車、石油産業→IT化デジタル インターネット社会→製造業の崩壊、超高額所得者の出現、米国内での税逃れ)		
11	９月18日	コロナ危機の政治、社会課題と展望	社会学者、東京工業大学准教授 西田亮介さん
	① 長期的な観点が欠落、② 国政や自治体の政治家たちが利己的に振る舞い、合理的行動をとれなかった　現行体制は縦割り化しており、メディアや労働者等の巻き込みが不十分。時限付き社会的協力体制を構築すべき。		
12	９月25日	パワー・シフト　大国はなぜ興亡するのか？ ◆メイン講師の３回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	大国の興亡、長期的経済発展の成否は、自由・民主政治と資本主義の不可分の結合にかかる。経済的不均衡こそが大国衰退の原因。		
13	10月２日	尊厳ある国へ―令和日本のデザイン	日本大学危機管理学部教授 先﨑彰容さん
	「戦後日本のアイデンティティー」①自由と民主主義、②新自由主義、③日米同盟、④ 個人主義 令和日本デザインとは、取捨選択の自分の「判断基準」を持つということ		
14	10月９日	報道と政治―ジャーナリズムに求められること―	ジャーナリスト　　神保哲生さん
	ジャーナリズムとはメディア～媒体物、仲介者であること、現在の情報の全てはメディア経由であり、そこに正確性、中立性、信頼性がなければいけない。情報が溢れるなか、ジャーナリズムの技能向上と強化が問われる。		
15	10月15日	公開講座「アメリカと日本の100年：1921 ～ 2021」	国際基督教大学名誉教授 スティールM. ウィリアムさん
	10月16日	公開講座「小惑星探査機『はやぶさ２』―その成果と舞台裏」 【オンライン】	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所はやぶさ2プロジェクトチームサブマネージャ　中澤暁さん

回	日　付	講　　義　　名	講　　師
	学　　習　　内　　容		
16	10月23日	自主学習	自主学習日
	これまでの講義の振り返り及び意見交換		
17	10月30日	沖縄基地問題を考える・本土の視点/沖縄の視点	元内閣官房副長官補　柳澤協二さん
	・米軍からの要求に対する無批判な受け入れは政策意思の欠如であり、沖縄のみでなく全国の問題 ・緊張緩和の外交策として、沖縄を軍事のハブから交流のハブへ		
18	11月13日	自主学習	自主学習日
	学習生による講義：①長年携わってきた、草の根のベトナム支援活動②現地での生活で見たアメリカ社会の実情(白人主義ほか)		
19	11月20日	自主学習「三鷹市のデジタル化(DX)等に関する取組について」	自主学習日(企画部情報推進課 白戸課長)
	三鷹市の特徴と課題及びデジタル化(DX)についての市の考え方、活用における課題等についてのお話と意見交換		
20	11月27日	民主主義 対 権威主義　勝者はどちらか？ ◆メイン講師の４回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	希望的観測か批判的思考か？、自由な社会でこそイノベーションは進むのか？		
21	12月11日	日米安保関係の隠された断面	国際ジャーナリスト　春名幹男さん
	戦後から今日まで、日本政府が行ってきた対米交渉の条約文・共同声明を英語文書と外務省発表の日本語訳とで比較すると、内容に温度差あり。領土問題に、アメリカは不干渉の立場を取り、日本に与しない。		
22	１月15日	混迷の朝鮮半島情勢と今後の日韓関係	拓殖大学大学院客員教授　武貞秀士さん
	日本は米国と中国を単純に「米中対立」と見てはいけない。防衛政策として日本は日本型ハイブリッド戦略を取ること/日韓関係以上に北(ロシア、中国)政策が重要である / 敵基地攻撃能力を保有し、同じテーブルに付くべき。		
23	１月22日	戦争と平和　なぜ戦争は起きるのか？ ◆メイン講師の５回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	ピアスは「平和は単なる休戦期間」と言った。それならば、平和持続のため、如何に不安定化の機を軽減・解消するか / 民主主義には、数の論理の暴力など欠陥がある。中国側の指摘に学ぶ姿勢が必要。		
24	１月29日	政治課題としてのジェンダー平等～弁護士実務から見えるもの	弁護士　　太田啓子さん
	生まれた時から、男性は「男性」という特権を持っている。女性もそれを看過し、助長している /「それ、相手が男性だったら、同じことを言いますか」/ 政治課題としてジェンダーを捉える必要性【オンライン】		
25	２月５日	自主学習	自主学習日
	学習生による講義：日本社会において、マイノリティであること		
26	２月12日	生活困窮者支援の現場から	一般社団法人つくろい東京ファンド 代表理事　　稲葉　剛さん
	日本社会におけるセーフティネットの脆弱性 /「住まいを失う」ことの意味 …仕事につけない、国の施策を受けられない(給付金を受け取れない) / 若年層に広がるホームレス【オンライン】		
27	２月19日	自主学習	自主学習日
	このコースでの学習の内容をまとめた制作物を作成。学習生が毎回作成する講義の記録をプリントし、感想や写真を加えて模造紙４枚に貼り付けた。制作物は３月、１階自販機コーナー前の廊下に展示。		
28	２月26日	外交と内政　外交とは何か？　日本外交はどうあるべきか？ ◆メイン講師の６回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	・前日、ロシアによるウクライナ侵攻があり、ウクライナの人々が置かれた立場と一人一人がどう考え、どんな行動を取るのかが大事という話をされた。・外交と内政の関係　・民主主義の後退　・厳しさを増す安全保障環境　・米中関係と日本の国益等		
29	３月５日	自主学習	自主学習日
	一年の講義内容を振り返った。各学習生が印象に残った内容を語るなかで、お互いの意見交換の場にもなった。		
30	３月12日	ウクライナ戦争　◆メイン講師の７回目講義	東京大学名誉教授　　小原雅博さん
	「リバイアサン、市民同士が契約を結んで成立した政治共同体、すなわち国家とは」「新冷戦」「民主主義と権威主義」…、ウクライナ侵略という事態になってしまったが、この一年で学んだ全てを内包していると言える。		

分断に満ちた世界を考える機会になりました　Y. O.

国際政治や外交・安全保障から、格差やジェンダーの問題まで、普段必ずしも深く考えてなかった幅広い政治課題について、様々な知見に触れることができ、充実した学習機会となりました。その中でも、メイン講師小原先生の講義では、外交・安全保障を考える上で基礎となる理論や歴史的事実を踏まえた上で、現代の問題事象（最後はウクライナ問題まで）を取り上げていくという構成で、国際政治のものの見方の座標軸をいただいたと思っています。

全体として幾つか印象に残った点を挙げると：

①権威主義体制に問題はあるが、民主主義自体も数の暴力や手間がかかるなど、制度的欠陥を内包している。国民一人一人が Check & Balance を利かせていかないと、分断や暴走に繋がる。

②一般のマスコミ情報や分析には偏りがあり、また、最近の SNS は人間のダークサイドを助長するリスクがある。何が真実か、信頼できるソースを嗅ぎ分け、何が正しいのか、自身の頭で考える不断の努力が重要である。

③気候問題やパンデミック、あるいは、核･AI 兵器や遺伝子操作などグローバルな課題が山積する世界で、国際秩序を担う新たな体制や社会制度を考えていく必要がある。人新世において、自然科学は大きく発展したのかもしれないが、それを正しく活用するためには、人類が滅亡する前に、先ずは人を治める仕組みを確立することが、社会科学の使命である。

最後に、小原先生他講師陣の方々がコロナ禍の制約にも拘らず、真摯に受講生に向き合ってくださったこと、また、企画 / 運営委員の方々が、自主学習の機会を有意義なものにしようと様々な工夫（受講生による講義など）をされたこと、改めて感謝申し上げます。

「混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか」コースを受講して　小　野　浩　美

私たちの目の前で起こっている問題―戦争、平和、外交、国際関係、民主主義国家と独裁国家、社会・文化の多様化、地球環境、温暖化などをどのように考え、どうしていくべきなのか、自分の中ではっきりさせたいという動機でこのコースを受講しました。

１年間の講義が終わる頃、ロシアのウクライナ侵攻が勃発し、まさに‘混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか’が問われることとなりました。

最後の講義は、ロシアのウクライナ侵攻にテーマを据え、受講者の質問や意見に多くの時間がとられました。１年間のテーマが凝縮されたような、充実した討論時間を持つことができました。

メイン講師の小原雅博先生は外交の実務を歩んできて、その後大学で教え、今はビジネス世界に関わっているという話で、はじめの頃の講義では、今ある問題を総花的解説的に話しているという感じを受け、話は分かりやすかったがそれ以上自分に感じるものがありませんでした。

最後２回のロシアのウクライナ侵攻問題の話の中で、「想像力を持って共感できることは大事、その場面で１人１人に何ができるのか、できる事をやっていく」という話に先生の立場性が感じられ、自分も大いに励まされました。

今回の受講は、今までの中で一番学ぶものが多かった気がしています。他の受講生との距離もとても近く感じました。講師の先生方、一緒に受講した皆さん、ありがとうございました。

得たもの

金　坂　由　美

「知らないことを知る」一年間でした。自分自身の情報の無さ、視野の狭さ、思慮の浅さをつくづく感じました。

綺羅星のような講師陣（自主学習では、受講生の方が講師役を務めてくださいました）により、授業時間は毎回あっという間でした。

圧倒されるばかりの一年でしたが、権威主義の台頭、地球の温暖化、沖縄の基地問題、ジェンダー格差、社会の分裂構造・・・、どれを取っても自分は無関係ではいられないと実感できたのは大きな収穫でした。

この一年間､同じ“市民大学生”としてお付き合い下さった皆さんにお礼申し上げます。生涯学習センターの職員の方にもお世話になりました。どうもありがとうございました。

世界はますます混迷化

S. K.

昨年５月に始まった市民大学、総合コース「混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか」は当初からコロナやそれに関連する米中、日中関係などの国際情勢と関連する国内事情などがテーマとして取り上げられ先生方の講義を拝聴してきた。

しかし最後の講義が近づいた２月 24 日から突如としてウクライナ・ロシア危機が浮上してきた。丁度２月 26 日のテーマはメイン講師の小原雅博先生の「外交と内政～日本外交はどうあるべきか」であったが、ウクライナ情勢についても話され注意して拝聴した。

冷静に考えると TV の報道の様にウクライナ可哀想一色、ロシア・プーチン極悪人と単純に見てよいか疑問がある、ウクライナは国の成り立ちとその後の歴史で様々な国家としての変遷を経ている。

ロシア侵攻を想定した自衛策と国防計画は如何なるものだったのだろう？国民に不安や恐怖を招く結果になった事はある意味で国家首脳の致命的な国の防衛に関する判断ミスだが、その首脳を選んだのはウクライナ国民である事を考えると民主主義はつくづく難しく造り上げるのと同様に維持も多大な努力を必要とする。

すぐに米国や NATO が軍を派遣して支援すると思ったが、武器や物の支援に止まっている、ウクライナ軍が自衛の力を発揮する事を見てから判断するのか？ウクライナで血を流す米国兵が出る事は避けたいのだろうか？それならば日米同盟の場合はどうなるのか？講義の中でも話題になった「米国は日本が侵略された場合に本当に助けてくれるか」を思い出し、どう向き合うべきか自問した。

日本を取り巻く環境は近年大きく変化し、ミサイルを打ち続ける狂人首脳が率いる国家や専制主義の国家が近隣に存在する、と講義を通じて理解したが、防衛と平和維持はコストもかかるが民主主義国家を守りぬくのであれば「十分な自衛力と防衛力を持ち備えあれば憂いなし」としたい。

ウクライナ問題を考える

川　島　徳　司

ウクライナ問題を考えてみたい。新聞の時事川柳に『歴史の出来事と思っていた戦争』とあった。本当に信じられないことが起こっている。

３月７日現在、ウクライナ脱出の難民が150万人を超え、今後400万人とも予測される。脱出者が寒い中を子供を連れて何時間も列車に乗っている光景は涙を誘う。ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領に対する暗殺が過去一週間に少なくとも３回試みられたとの報道もある。週末の欧州ではロシアのウクライナ侵攻に抗議するデモや大規模集会が行なわれた。日本やアメリカでも同様であり、ロシア全土ではウクライナへの侵攻に抗議するデモが、２月24日の侵攻開始以来、累計拘束者数はモスクワなど約150都市で計約１万3000人となった。ロシア当局が「フェイクニュース」（偽情報）と見なした場合に、記者らに対して最大15年の禁錮刑を科せる法案に署名した。プーチン露大統領は４人のスタッフとの会議で政策を決定しているようだが、TVによると、YesかNoかと威圧的態度で接しているのがわかる。噂によると４人のうち３人はプーチンから離れつつあるようだ。アメリカ、英国、ドイツ、フランス、カナダ、日本などの首脳が反対する中、侵攻を続けるのはどのような神経なのか。プーチン露大統領も暗殺を恐れ雲隠れしているようだ。悲惨な結果が起こらねば良いが。プーチン露大統領がどんなに言論統制を強め、荒唐無稽な嘘を並べ立てても、ロシアが国際法違反の侵略を続け、無辜の市民を殺傷しているという厳然たる事実は隠せない。ロシアはウクライナ侵略について、自国の安全を守るための「特殊軍事作戦」だとする主張に固執しているとのこと。早く収束してほしい。

世界に繋がる私たち

E. K.

充実した学びの１年だった。終わってしまうのが残念である。

まず、的確に世界の動きを伝え、国内問題を掘り下げ、問題提起してくださった講師陣の存在が大きい。心から感謝したい。学習生たちもそれに応え活発なやり取りが行われた。こんな場があることが貴重であり、そこに参加できたことは大きな喜びである。もっと多くの機会がつくられ、一人でも多くの市民が参加できることを強く希望したい。

振り返ると、市民大学が開講した春はコロナの先行きと影響への懸念とともに、台湾をめぐる緊張がとりざたされ、「台湾危機」は起こるのか盛んに話題になっていた。近々に「危機」が勃発するというトーンの報道もあり、日本はどうなる？という発信も活発だった。

そしてこの原稿を書いている今、ウクライナが深刻な状況である。世界は動き、私たちはその中に置かれていることを痛感させられる。問題の本質は何か？　影響は？　どう対応するのか？　考えなければならないことは山ほどあるが、適切な情報を選択する力も知識もない。だからこそ、私たちは政治も直視し、学ばなければならない。

環境問題では「地球規模で考え、足元から行動しろ」とよく言われるが、これは他の多くの問題にも共通している。例えばジェンダー平等は、日本が大きく後れをとっているきわめて政治的な課題だ。解決には政治分野でのクォーター制の導入等、政策的なポジティブアクションが必要である。と同時に身近な生活の場でも、社会的につくられた性別役割分担が幅を利かせている現実があり、その対応が私たちにも問われている。

私たちの身近な課題の多くは政治と強く結びついている。そのことをもっと見つめ、自分の生活に引き付け掘り下げて考えなければならない。市民大学が、政治を学び自分たちの足元から課題解決を図ろうとする市民の拠り所として役割を果たせるよう、私たち自身が自覚的に取り組んでいかなければならない。

コロナ禍でもやり遂げた市民大学を祝う！

K. T.

コロナパンデミック、ウクライナ VS ロシア戦争･･･私達はこれらの事象をいかに受けとめているだろう。この原稿を書いている今まさに、戦禍にある人々の存在が心を離れない。福島原発事故から11年を経てなお、次々押し寄せる世界を巻き込む困難に対し、一人一人の力は無力に思えるけれど叡智を集めて平和を希求していきたい、心からそう願う。

今年度の政治コースは、小原雅博先生をメイン講師にお迎えし「混迷化、流動化する世界にどう向き合うべきか」とテーマを掲げ、多彩なゲスト講師陣にも力をお借りして無事最後まで辿り着くことができた。

カリキュラム編成に関しては、地政学的な観点のテーマが不足していた点やゲスト講師の専門分野を順序立てて配置できなかった（不可抗力な）点など反省点もあるが、概ね学習生の皆さんから好評を得られ、企画に当たった者としては安堵の念が強い。

小原先生には、深い専門知に、外務官僚としての実践知が加わり立体的な視点で世界情勢に関する多くの示唆を頂いた。

新しい日本外交のあり方を提示された猿田佐世さん、日米安保の真相を詳らかにされた春名幹男さん、ジェンダー平等を熱く語られた太田啓子さん、朝鮮半島情勢を詳述された武貞秀士さんなど、多くのゲスト講師のお話は、それぞれ１年かけて学びたい内容で、強い印象を持った。

また自主学習日には、皆さんとの意見交換の他に、学習生の中の３名の方にプレゼンテーションをお願いし、他所では得られない様な深い学びの時間を持てたのも、幸せなことだった。

三鷹市の市民大学は市民による企画・運営であることが特色であり、半世紀を超えて先達の方々から継承されてきた稀有な事業だと思う。この伝統を次の世代の方達にも、是非未来に繋げていってほしい。

今年度も感染症の蔓延を懸念しつつ、オンライン講義も含め完全実施できたことを、講師の方々、生涯学習センターの職員の皆さん、共に学んだ学習生の皆さんに感謝したい。

受講を終えて

田　中　正　人

小原先生の第一回講義～コロナ禍の本質、安全か自由か？健康か経済か？の厄介な問題を考えるが非常に印象に残りました。①スペインインフルの教訓から各国のとるコロナ対策と現状―コロナを抑え込み経済成長を回復した中国、民主主義国インドの感染爆発と医療崩壊、米国はワクチン接種で挽回、そして日本は緊急事態宣言での感染対策実施と経済活動推進です。② 45 ケ国のコロナデータから感染対策が経済回復を強めると結果ありで健康か経済かの二者択一は正しくない！まさに日本のとる道よしです。但し ICT や AI の活用、ワクチン開発の強化が重要となってきた。③政治では統治（ガバナンス）論争が出てきた。中国の法による支配での監視社会へ向うのか～欧米の私権制約の警戒で自由、プライバシーの民主主義社会へ向うのか～日本の自粛というあいまいな社会かです。科学面では情報の共有、デジタル化などあらたな問題が生じてきた。④中国の権威（専制主義）の自信とパワー（科学と軍事）増大と著しい経済成長。米国は社会の分断、人権問題をのり越えて４つの挑戦をかかげての政治、経済の再生復活へです。⑤国際政治では中国有利のパワーバランスが鮮明になってきたこと。価値（ガバナンス）は民主主義か権威（専制）主義かの攻防になってきたことである。以上よりコロナ禍により見えてきた本質は政治、経済問題であり、その基本にあるパワー、利益、価値の体系を如何にして正しく実行していくかであるでした。よく勉強になり！よく考える！ことができ感謝します。最終回の講義～ウクライナの行方を期待しています。ありがとうございました。

コースで学んだこと

田畑　洋

1．人類が取り組むべき課題―

①地球温暖化（世界的な異常気象）、②核兵器（人類を破滅する核兵器の存在）、③新型コロナ感染症（感染者数455百万人・死者6百万人）で、この三つの課題は人類が一体となって取り組む課題であり、根本の原因は人間のエゴによるものである。

2．課題の解決策―

①国連―核兵器禁止条約の承認・批准やCOP26での世界の平均気温の上昇率1.5℃に抑制するなど成果をあげている。

②宗教―宗教の目的は人類の幸福と世界平和にある。今こそキリスト教、イスラム教を軸に仏教なども加わり宗教間対話をとおし世界平和に貢献する。

③対話―武力による課題解決は相互に恨みなど心の傷が残り、課題は解決しない。対話は、対等な立場で信頼をベースに粘り強く続けることにより課題の解決が図れる。

④青年―時代を創造・変革するのは常に青年である。青年が使命を自覚して、先頭に立って世界の青年が連帯して課題に取り組む。

⑤文化―国民と国民の信頼関係を結ぶ要諦は文化交流である。信頼の基盤ができれば、政治、経済などの利害関係の課題も解決に結びつく。

⑥人類益―人類の共通課題については、従来の自国優先主義の考えでなく人類益を優先として課題の解決を図る。

3．日本としての取り組み―

日本にとって、権威主義の中国、ロシア、北朝鮮は隣国であり、中国、朝鮮とは長期に渡り、文化交流が行われた大切な国である。また、日本は民主主義国家の代表でもある。その意味で、日本は権威主義の国家と米国中心の民主主義国家の平和と文化の橋渡しの使命がある。

4．個人としての取り組み―

大切なのは、学んだことを自分に置き換えてやれることを実行することである。それは、すべての課題が自分にかかってくるからである。現在、それぞれの課題ごとに実践内容を考えている。

現代を見る切り口

LKW

日本や世界の様々な問題を色々な切り口で勉強する機会を得られました。ただ知識としてではなく自分の有り様を考えさせられた講座でした。

現代は複雑な様相を示しています。知識だけではあまりにも危ういです。自分の本音を見つめ、そこを出発点とし、現代を見据え、講座から得られたものをヒントとしてしっかりした見方を持ってチャレンジして行きたいと思っています。２回目の受講でしたが自分なりに有意義に受講できました。

一年を振り返って　K. N.

今年度の講座は新型コロナウィルス感染症の拡大が懸念されるなか定員わずか15名での開催でした。オンラインでの講義が２回ありましたが他は自主学習も含め対面式で行われ、一年間コロナに感染することもなく無事終了できた事にまず感謝です。講義内容も濃く定員が少なかった事はもったいなかった反面、受講できた身としてはありがたく貴重な時間でした。

昨年夏の第５波で感染者数が増えピーク後は急減するも、オミクロン株の判明と共に爆発的なスピードで第６波に突入し現在に至っています。世界的なコロナ禍、東京オリンピック・パラリンピック、北京冬季オリンピック･パラリンピックなどスポーツの祭典も開催されました。気候変動にパンデミックも加わるグローバルな危機のなか、この市民大学のおかげでもあるのですが世界のニュースに敏感になります。２月24日に勃発したロシアによるウクライナ侵攻などはまさに『混迷化・流動化する世界にどう向き合うべきか』のコース名に合った旬の学習でした。

メイン講師：小原雅博先生の講義全７回は「コロナ禍の本質」「米中関係」「民主主義対権威主義」「外交と内政」等の内容でした。共通課題として常に“米国型民主主義と中国権威主義”との対比があったように思います。米国は絶対的な強国ではなく中国の台頭によってパワーバランスも変化しています。過去の事実から現在進行中の問題まで年間を通して幅広く学習しました。ゲスト講師の講義もそれぞれ特色があり目新しい事実もたくさん知りました。

全ての内容把握は難しく感じましたが、今後は正しい情報のもと想像力を豊かにし世界の流れに向き合っていきたいと思っています。

本当に混迷化、流動化した世界　渡　辺　　衛

令和３年度の政治コースでは混迷化する、流動化する世界にどう向き合うか、に付いて学んだがそれが本当に現実となった。ロシアがウクライナに侵攻して世界は一気に混迷化した。同時に６月に羽場久美子先生から学んだEUのレジリアンスを目撃した。この世界の現実を見通した様な企画委員会の見識には恐れ入った。アメリカの分断が生んだトランプ大統領の４年間に実行された政策が世界を混迷化に導き、全く何も実現出来なかったアフガニスタンでの撤退はバイデンを弱体化させた。このアメリカとEUの民主主義国家の混乱はプーチンにウクライナ侵攻を決断させたが、これを書いている３月中旬では経済制裁以外に民主主義国家にはウクライナを助ける手立てを取る意思、即ちロシアと軍事的に対応する事は無い様に思える。こうした民主主義国家と権威主義国家との対立についても今年度のメイン講師の小原雅博先生からまさしくこのタイトルで講義を受けた。なぜ戦争は起きるのか？も小原先生の講義を受けた。

こうした講義を受けた我々受講生は自分で情報を集め、判断する気持ちが生まれて来た様に感じられる。世界は常に何処かで何かが起きている。これを考えるにも一方からの情報だけでは正しい判断は出来ない事も良く理解できた。

しかし、正しい複数の情報を得る、具体的な方法と成ると容易では無い。従来のメディアに加えて得る情報もNetから取るには自分のメディアリテラシーを高めないと間違えた判断をする事になる。このウクライナの無謀な侵攻からも､何時日本に危機が訪れる事も現実と成る事も考えざるを得ない｡危機が現実と成った時に正しく考え行動する為に学んでいきたいと思った１年だった。

令和３年度三鷹市民大学事業総合コース
学習記録「あゆみ」第 54 号
発行　公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団
編集　三鷹市民大学事業総合コース「あゆみ」編集委員会
〒181-0004　東京都三鷹市新川 6-37-1
元気創造プラザ４階　三鷹市生涯学習センター
電話　0422-49-2521
https://www.mitakagenki-plaza.jp/shogai/
※ウェブサイトに本誌のＰＤＦ版を掲載しています。